



VMware vCenter の Cisco HyperFlex HTML プラグイン

- [Cisco HyperFlex vCenter プラグイン \(1 ページ\)](#)
- [VMware vCenter の Cisco HyperFlex HTML5 プラグイン \(1 ページ\)](#)
- [vCenter : HyperFlex プラグインの組み込みアクション \(46 ページ\)](#)
- [VMware vCenter の Cisco HyperFlex Flash プラグイン \(59 ページ\)](#)

Cisco HyperFlex vCenter プラグイン

Cisco HyperFlexは、Cisco HX Connect、Cisco HyperFlex プラグイン、またはストレージコントローラ VM コマンドラインを使用して、コンテンツを柔軟に監視および管理できます。この章では、Cisco HyperFlex プラグインによるコンテンツの管理とモニタリングについて説明します。インストールワークフローは、単一の vCenter でもリンク モードの vCenter インスタンスのどちらでも同じです。

Cisco HyperFlex vCenter プラグインは、vSphere Web クライアントと統合され、HX Data Platform のインストール後の管理およびモニタリング機能をすべてサポートします。vSphere Web Client Navigator から Cisco HyperFlex vCenter プラグインに直接アクセスします。

VMware vCenter の Cisco HyperFlex HTML5 プラグイン

ここでは、Cisco HyperFlex HTML5 プラグインを使用して VMware vCenter から HyperFlex クラスタを監視および管理する方法について説明します。

Cisco HyperFlex HTML5 プラグインの前提条件

Cisco HyperFlex HTML5 プラグインには、次のハードウェアおよびソフトウェアの前提条件が適用されます。

- VMware vCenter サポートの Cisco HyperFlex HTML プラグインが vCenter 6.5U2 以降の Cisco HX リリース 4.0(2a) 以降に導入されました。

- ブラウザの互換性: Cisco HyperFlex HTML プラグインは、Chrome、Firefox、およびIEで動作します。
- Cisco HyperFlex HTML5 プラグイン 2.2.0 は、サポートされる最小バージョンです。実行中のバージョンが 2.1.0 または 1.0.1 の場合は、最新バージョンにアップグレードします。
- HTML-Plugin v2.2 は、vCenter リンク モードをサポートします。
- インストール ワークフローは、単一の vCenter でもリンク モードの vCenter インスタンスのどちらでも同じです。
- 管理者権限は、ユーザとロールを管理するために必要です。
- HX リリース 5.0 (1a) 以降では、完全な HTML5 プラグイン機能を使用するには、ライセンスステータスが In-compliance である必要があります。
- HXDP リリース 4.5(2a) および 5.0(x) は、Cisco HyperFlex Flash プラグイン (元のプラグイン) をサポートしていません。

vCenter HTML5 プラグインのインストールと登録

VMware vSphere Web クライアントで Cisco HyperFlex HTML5 プラグインをインストールします。プラグインのインストールプロセス中に、HX リリースに一致する必要な情報を入力します。

HX リリース 4.5 (1a)	HX リリース 4.5(2a) 以降
vCenter Server FQDN/IP	HX ストレージコントローラ VM 管理者パスワード
vCenter サーバのユーザー名とパスワード	vCenter ユーザ名とパスワード
HX Controller VM のパスワード	-
ストレージコントローラ VM ルートパスワード	-
ストレージコントローラ VM 管理者パスワード	-

表 1: CLI 引数

Option	必須またはオプション	説明
-h, --help	任意	指定されているコマンドに関連するヘルプメッセージを表示して終了します。
-u, --unregister	任意	Cisco HyperFlex vCenter プラグインの登録を解除します。

Option	必須またはオプション	説明
-s, --show	任意	HTML5 vCenter プラグインの詳細を表示します。
-v, --verbose	任意	操作をより詳細にします。

始める前に

- vCenter とコントローラ VM 間の HTTP (ポート 80) と HTTPS (ポート 443) の接続を確認します。
- Cisco HX リリース 4.5 以降を使用する展開では、[セキュア管理シェル](#)機能を確認します。
- HTML-Plugin v2.2 は、vCenter リンク モードをサポートします。
- インストールワークフローは、単一の vCenter でもリンク モードの vCenter インスタンスのどちらでも同じです。

ステップ 1 [Cisco ソフトウェア ダウンロード](#) サイトから VMware vCenter 用の Cisco HYPERFLEX HTML プラグインをダウンロードします。

ステップ 2 HyperFlex-VC-HTML-Plugin-2.2.0.zip ファイルを、コントローラ VM のいずれかの一時ディレクトリにコピーし、解凍します。

- a) ファイル転送は、`sftp cli`または`winscp`や`filezilla`などのファイル転送アプリケーションを使用して完了できます。

ファイル転送アプリケーションを介して`sftp`転送を使用するには、HX管理者アカウントを使用してSCVMの`/tmp`フォルダにファイルをコピーします。

- b) そのSCVMにSSH接続し、`admin`アカウントでログインします。
c) コマンド「`cd/tmp`」を使用して`/tmp` ディレクトリに移動します。

例：

```
"cd /tmp"
```

- d) コマンド`unzip`を使用して、プラグインファイル `HyperFlex-VC-HTML-Plugin-2.2.0.zip` を解凍します。

例：

```
unzip HyperFlex-VC-HTML-Plugin-2.2.0.zip
```

ステップ 3 シェルで `install_vc_plugin` コマンドを実行し、次のように入力します。

- vCenter FQDN/IP アドレス
- vCenter サーバの管理者のユーザー名とパスワード
- ストレージコントローラ VM 管理者パスワード

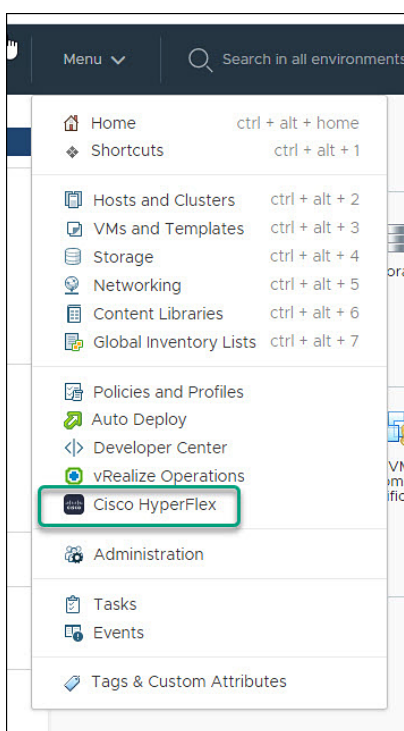
(注) セキュア シェルを使用する Cisco HX 4.5 (x) 以降では、デフォルトのストレージコントローラ VM ルート パスワードはストレージ コントローラ VM 管理者パスワードと同じです。

ストレージコントローラ VM ルートパスワードの入力を求められた場合、デフォルトのルートパスワードは、セットアップ時にコントローラ VM に割り当てられた最初のパスワードです。

- ストレージ コントローラ VM 管理者パスワード

ステップ 4 vCenter にログオンすると、新しいプラグインがインストールされたことを確認するために、青色のメッセージ バナーが表示されます。

ステップ 5 vCenter からログアウトし、再度ログインするすると、HTML5 プラグインの Cisco HyperFlex メニューが表示されます。



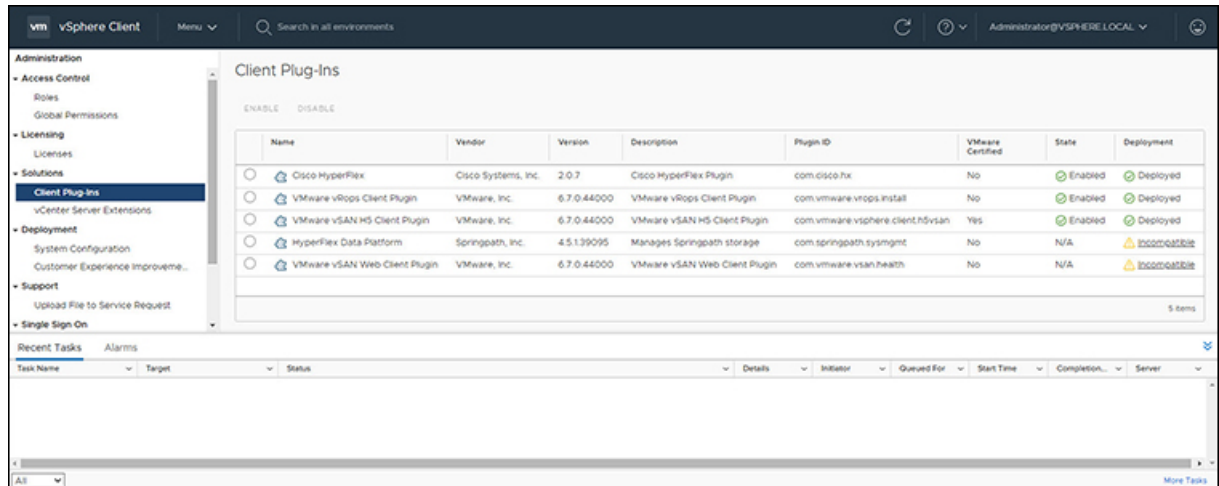
vSphere クライアントからの Cisco HyperFlex HTML5 プラグインのインストールの確認

vSphere Client UI から Cisco HyperFlex プラグインのインストールを確認します。

始める前に

HTML5 プラグインを vCenter サーバにインストールする必要があります。

vSphereクライアントを起動し、[メニュー]> [管理]> [ソリューション]> [クライアント プラグイン] を選択します。



Cisco HyperFlex HTML5 プラグインのアンインストール

HX Data Platform HTML5 プラグインをアンインストールするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 シェルでアンインストール コマンド `install_vc_plugin -u` を実行し、次のクレデンシャルを入力します。

- vCenter FQDN/IP アドレス
- vCenter サーバの管理者のユーザー名とパスワード

ステップ 2 vCenter サーバの vSphere UI サービスを再起動します。

HTML5 プラグインのアップグレード

最新の HTML プラグインにアップグレードするとき、[Cisco ソフトウェア ダウンロード サイト](#) から VMware vCenter 用の Cisco HyperFlex HTML プラグインをダウンロードします。

始める前に

このタスクは、vCenter サーバにインストールされている HTML プラグインのバージョンが 2.2.x より前の場合にのみ使用します。

ステップ 1 Cisco ソフトウェア ダウンロード サイトから VMware vCenter 用の Cisco HYPERFLEX HTML プラグインをダウンロードします。

ステップ 2 HyperFlex-VC-HTML-Plugin-2.2.x.zip ファイルを、コントローラ VM のいずれかの一時ディレクトリにコピーし、解凍します。

a) ファイル転送は、`sftp cli` または `winscp` や `filezilla` などのファイル転送アプリケーションを使用して完了できます。

ファイル転送アプリケーションを介して `sftp` 転送を使用するには、HX 管理者アカウントを使用して SCVM の `/tmp` フォルダにファイルをコピーします。

b) その SCVM に SSH 接続し、`admin` アカウントでログインします。

c) `/tmp` ディレクトリに移動します "`cd /tmp`"

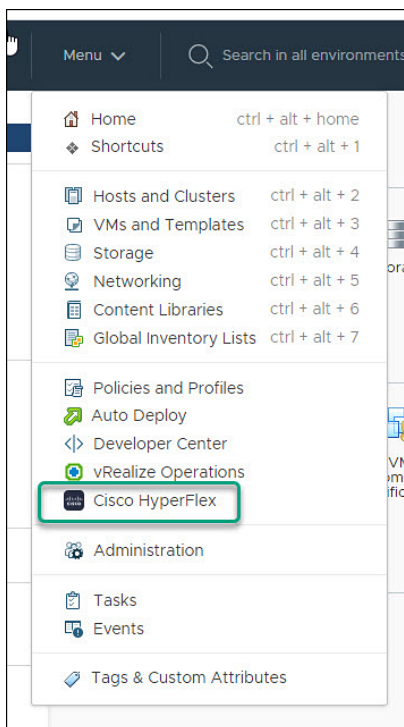
d) プラグイン ファイル `HyperFlex-VC-HTML-Plugin-2.2.x.zip` を解凍します

ステップ 3 シェルで `install_vc_plugin` コマンドを実行し、次のように入力します。

- vCenter FQDN/IP アドレス
- vCenter サーバの管理者のユーザー名とパスワード

ステップ 4 コントローラ ルートおよび `admin` パスワードを使用してアップグレードプロセスを続行するには、**[Y]** を選択します。

ステップ 5 ログアウトし、vCenter に再度ログインして、vCenter メニューに Cisco HyperFlex を表示します。



Cisco HyperFlex HTML5 プラグインの使用

次の表に、プラグインバージョンごとの機能サポートを定義します。

表 2: HTML5 プラグイン機能のサポート

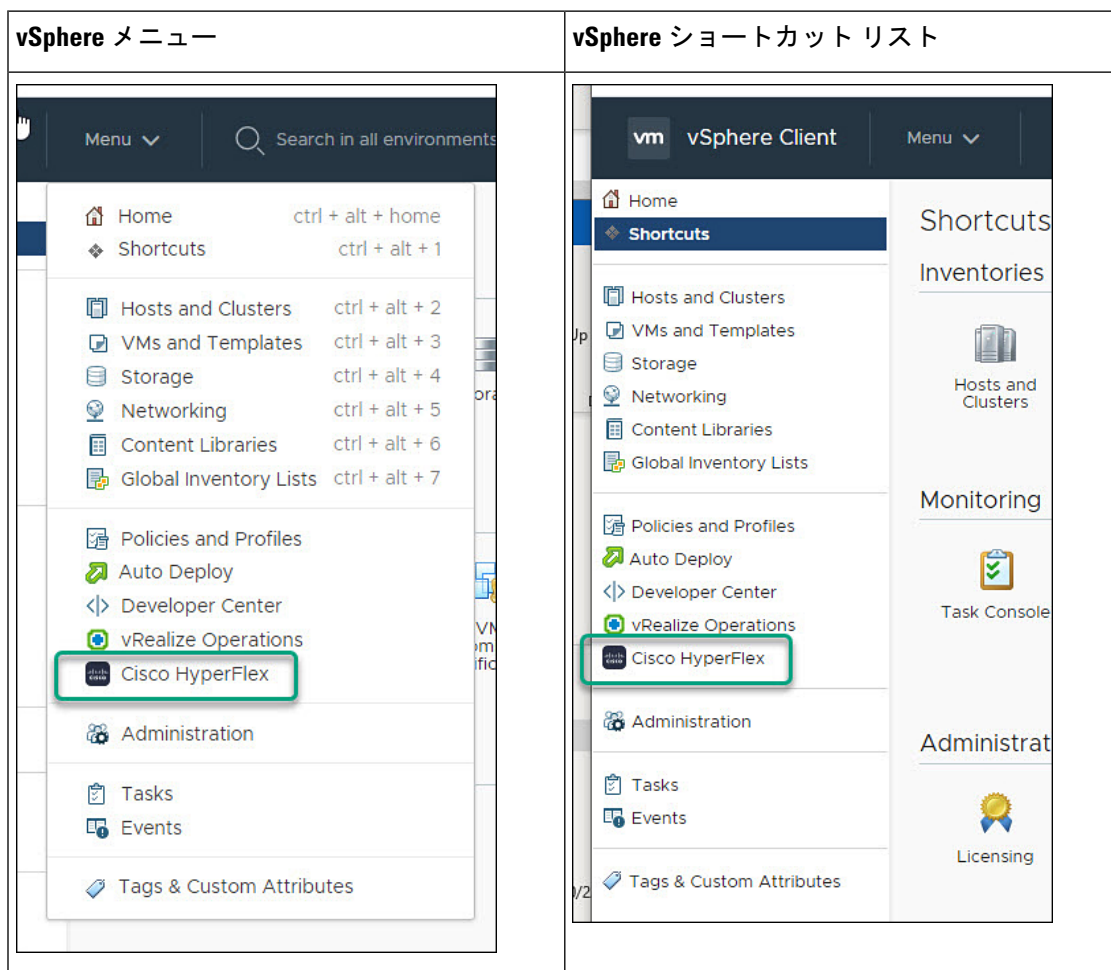
特長	プラグイン バージョン 2.0.0	プラグイン バージョン 2.1.0	プラグイン バージョン 2.2.0
登録済み HX クラスタの検出	✓	✓	✓
クラスタの名前変更 1	-	✓	✓
HX クラスタ サマリーの表示	✓	✓	✓
クラスタおよびデータストアのパフォーマンス チャートの表示	✓	✓	✓
ディスク ビュー	✓	✓	✓
ノード ビュー	✓	✓	✓
HX データストア管理	✓	✓	✓
VM サマリーと上位 VM コンシューマ	✓	✓	✓
ネットワーク管理	-	✓	✓
iSCSI 管理 2	-	✓	✓
イベントおよびアラーム	✓	✓	✓
管理タスク	-	✓	✓
仮想マシン レベルでの HX スナップショット とクローン	-	✓	✓
スナップショットのスケジュール 3	-	✓	✓
HX クラスタへのユーザーとアクセスの管理	✓	✓	✓
アップグレードのための HX Connect の相互起 動	✓	✓	✓
ホストおよびクラスタ レベルでの組み込み vCenter サーバアクション	✓	✓	✓

HTML 5 ライセンスステータス 4	-	-	✓
リンク モード	-	-	✓




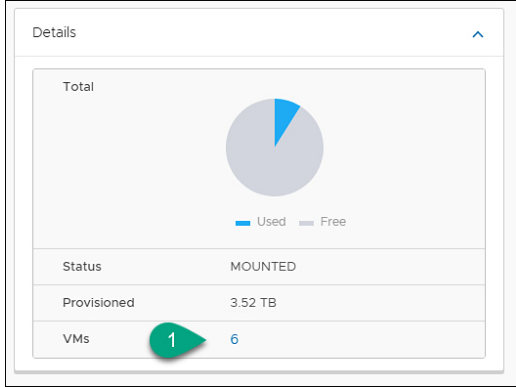
- ¹ HXDP リリース 4.5 (x) 以降が必要です。
- ² HXDP リリース 4.5 (x) 以降が必要です。
- ³ HXDP リリース 4.5 (x) 以降が必要です。
- ⁴ HXDP リリース 5.0 (x) 以降が必要です。

HTML5 プラグインの操作

Cisco HyperFlex HTML5 プラグインへのアクセスは、vSphere メニューまたはショートカットリストから簡単にアクセスできます。



Cisco HyperFlex HTML5 プラグインには、プラグイン全体で共通の機能があります。ここでは、アイコンとその使用方法について説明します。

アイコン	使用法
	Cisco HyperFlex プラグイン。インストールすると、このアイコンは[メニュー (Menu)]および[ショートカット (Shortcuts)]リストに表示されます。
	ビューを更新します。 (注) クラスタリストは動的関数ロードを使用し、[クラスタのスキャン (Scanning Clusters)]アイコンは、クラスタリストが完成したことを示します。
	クラスタテーブルにまだデータが入力されていることを示します。クラスタリストが完了すると、アイコンが消えます。
	ブラウザに表示されるコンテンツをフィルタリングします。
	内容を展開または折りたたみます。
	クラスタ間を移動します。
	[VC クラスタ (VC Cluster)] ボタンを使用して、HyperFlex イベントまたはアラーム ビューから vCenter イベントまたはアラーム ページに移動します。
	VM の数 (数値) をクリックすると、そのデータストアのすべての VM をリストする [データストア (Datastore)] ページに直接移動します。

クラスタの管理

HX Cluster へのユーザーおよびアクセスの管理

vCenter プラグインでは、ユーザーが管理者権限をもつ必要があります。ユーザーを作成し、クラスタ レベルの **[権限 (Permissions)]** タブからそのユーザーに管理者ロールを割り当てることができます。

ユーザーとHXクラスタへのアクセスを管理するには、そのユーザーのすべてのクラスタに **No Access** ロールを割り当てます。



(注) 管理者権限がユーザーとロールを管理するために必要です。

登録済み HX クラスタの検出

HX クラスタを検出し、展開内の vSphere 管理対象オブジェクトをマッピングするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 vSphere Web クライアントにログインします。

ステップ 2 **[メニュー (Menu)]** > **[Cisco HyperFlex]** を選択します

ステップ 3 **[再スキャン (Rescan)]** をクリックして、表示された HX クラスタのリストを更新します。
登録されたクラスタは、クラスタの詳細の概要とともに **HyperFlex** クラスタ テーブルに表示されます。

ステップ 4 新しい HX クラスタを vCenter サーバに追加し、それらがクラスタリストに表示されない場合は、クラスタ リスト グリッドの上部にある **[再スキャン (Rescan)]** アイコンをクリックして、**HyperFlex** からクラスタ リストをリロードします。アイコンは、クラスタテーブルにまだデータが入力されていることを示します。



クラスタリストが完了すると、アイコンが消えます。

クラスタの名前変更

クラスタの名前変更は、HX リリース 4.5 で導入されました。クラスタの名前を変更するには、次の手順を実行します。



ステップ 1 vSphere Web クライアントにログインします。

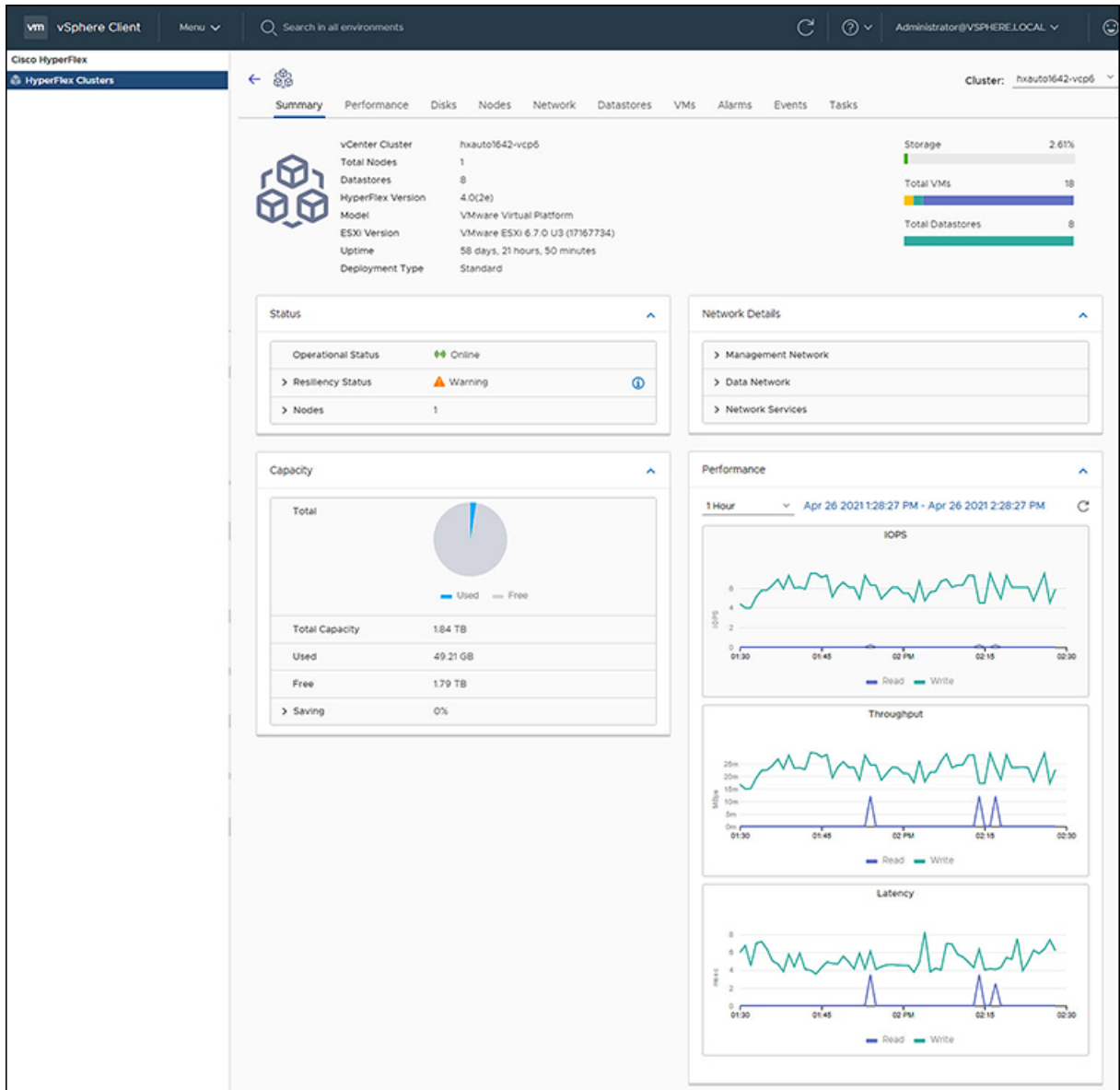
ステップ 2 **[メニュー]** > **[Cisco HyperFlex]** を選択します
[HyperFlex クラスタ] リストが表示されます。

- ステップ 3** 名前を変更するクラスタの行をクリックします。
サポートされているクラスタの **[名前変更]** ボタンが表示されます。
- (注) クラスタ名変更機能は、HXDP リリース 4.5 以降でサポートされています。
- ステップ 4** **[名前の変更]** ボタンをクリックします。
[クラスタの名前変更] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** **[クラスタ名:]** 行に新しい名前を入力します。
- ステップ 6** **[OK]** をクリックして名前変更を確定します。
-

HX クラスタ サマリーの表示

展開内の HX クラスタの概要を表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** vSphere Web クライアントにログインします。
- ステップ 2** **[メニュー]** > **[Cisco HyperFlex]** を選択します
- ステップ 3** サマリーを表示するには、検出された HX クラスタ名をクリックします。
- ステップ 4** **[概要 (Summary)]** をクリックして、合計ノード、データストア、HyperFlex リリース、モデル、vCenter クラスタ、ESXi バージョン、および稼働時間に関する詳細を表示します。



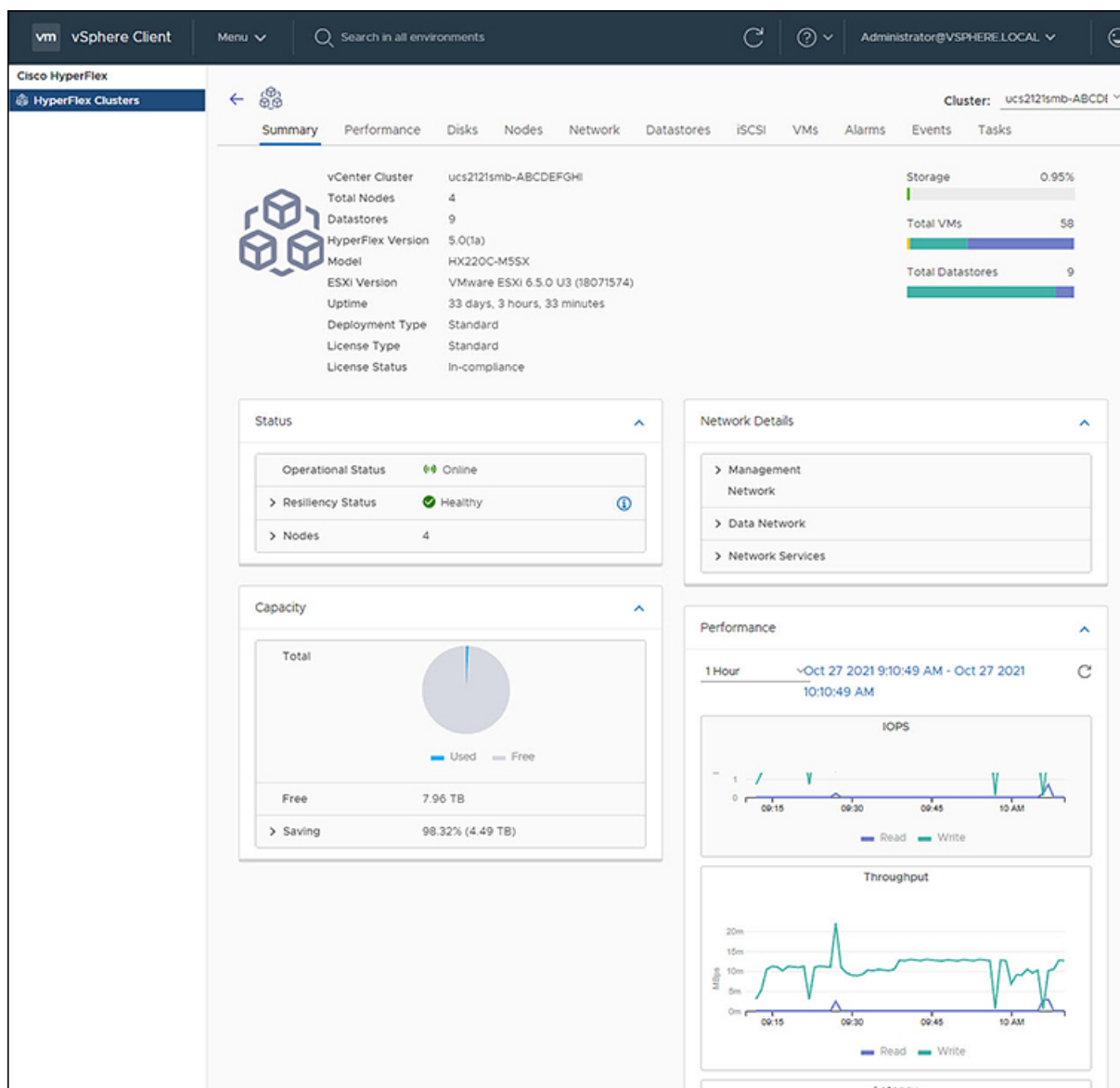


表 3: クラスタ概要ビューの詳細

フィールド名	その他の情報
vCenter クラスタ	vCenter クラスタ名
Total Nodes	ノードの合計数
Datastore	クラスタに接続されたデータストア
HyperFlex リリース	クラスタ上の HyperFlex のバージョン
モデル	モデル名

フィールド名	その他の情報
ESXi バージョン	ESXi バージョン
Uptime	クラスタが起動し実行された時間の長さ。
クラスタ タイプ	クラスタの種類
展開タイプ	クラスタ展開のタイプ。有効なオプションは[標準 (Standard)]と[エッジ (Edge)]です。
⁵ ライセンス タイプ	ライセンスのタイプ。有効なオプションには、評価、標準、およびエンタープライズがあります。 (注) 新しいユーザは、ライセンスを登録するために 90 日間の猶予期間を利用できます。90 日が経過すると、「ライセンスが準拠していません」と表示され、製品の機能が制限されます。
⁶ ライセンスの状況	ライセンスの状況。ステータスには、コンプライアンス違反、コンプライアンス違反、ライセンスが x 日以内に期限切れ、クラスタがシスコライセンスに登録されていません。クラスタがシスコのライセンスに登録されていません。
ストレージ容量バー	使用されている合計ストレージの割合のグラフ表示。バーにカーソルを合わせると、使用されているストレージの量が表示されます。
VM合計バー	クラスタ内のVMの合計数のグラフィカル表示。
合計データストアバー	クラスタに接続されたデータストアの数。バーにカーソルを合わせると、マウントされているデータストアとマウント解除されているデータストアの数が表示されます。

⁵ HX release 5.0(x) で追加された

⁶ HX リリース 5.0(x) で追加された

- a) サマリー ビューには、クラスタに関する追加の詳細情報（ステータス、ネットワークの詳細、キャパシティ、パフォーマンス）をもつ 4 つのポートレットが含まれています。

矢印を使用して、ポートレットの内容を折りたたんだり展開したりします。

表 4: [Status] ポートレット

フィールド名	その他の情報
運用ステータス	オンラインまたはオフライン

フィールド名	その他の情報
Resiliency Status	<p>警告または正常</p> <p>矢印をクリックして、[レジリエンスステータス (Resiliency Status)] の詳細を折りたたんだり展開したりします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホストの障害許容度 - 許容されるホスト障害の数 • レプリケーション係数 - コピー数 • 作成時間 - クラスタ作成時間 • 永続的デバイス障害許容 - デバイス障害の許容数 • キャッシングデバイス障害許容 - キャッシングデバイス障害の許容数
ノード	<p>クラスタ内のノードの数。</p> <p>矢印をクリックして、追加のノードの詳細を折りたたむか、展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ノードのタイプ • バージョン

表 5: [容量 (Capacity)] ポートレット

フィールド名	その他の情報
Total	使用済み容量と空き容量 (%)
合計容量 (Total Capacity)	利用可能容量
Used	Used Capacity
Free	Free Capacity
保存中	<p>節約された合計容量</p> <p>[圧縮と重複排除 (Compression and Deduplication)] で保存されたスペースの詳細を折りたたんだり展開したりするには、矢印をクリックします。データは、% で表されます。</p>

表 6: ネットワーク詳細ポータル

フィールド名	その他の情報
管理ネットワーク	管理ネットワークの詳細 矢印をクリックして、次の管理ネットワークの詳細を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• 管理 IP アドレス / FQDN• VLAN• デフォルト ゲートウェイ
Data Network	データ ネットワークの詳細 矢印をクリックして、次のデータ ネットワークの詳細を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• データ IP アドレス / FQDN• VLAN• デフォルト ゲートウェイ
ネットワーク サービス	ネットワーク サービスの詳細 矢印をクリックして、次のネットワーク サービスの詳細を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• DNS サーバ• NTP サーバ

表 7: [Performance] ポートレット

フィールド名	その他の情報
全般的な使用率	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス チャートは、ライセンス ステータスが [In-compliance] の場合に表示されます。 [時間間隔 (Time Interval)] リストをクリックして、パフォーマンス チャートに表示される時間の長さを選択します。 特定の時間の合計を表示するには、チャートの線にカーソルを合わせます。 表示を更新するには、[最新表示 (Refresh)] をクリックします。 [クラスタのスキャン (Scanning Cluster)] アイコンは、クラスタテーブルにまだデータが入力されていることを示します。クラスタリストが完了すると、アイコンが消えます。 タイムゾーンを変更するには、現在の時間間隔をクリックし、[時間範囲 (Time Range)] ポップアップに入力して、[OK] をクリックします。表示される時間は、ブラウザの時間を反映しています。
IOPS	IOPS パフォーマンス チャートの表示
スループット	スループット パフォーマンス チャートの表示
遅延	遅延パフォーマンス チャートの表示

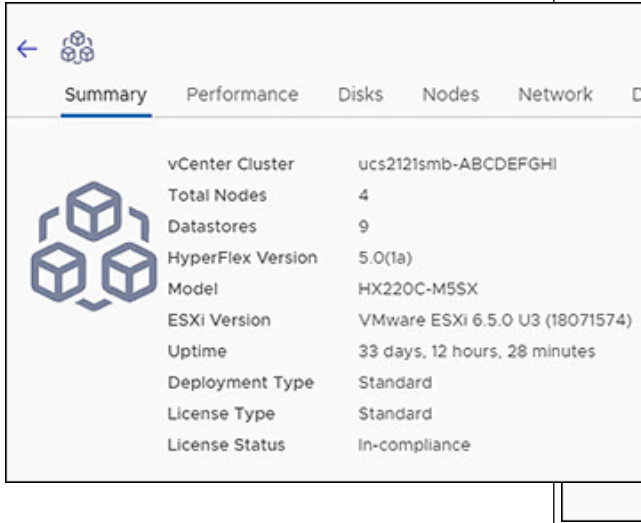
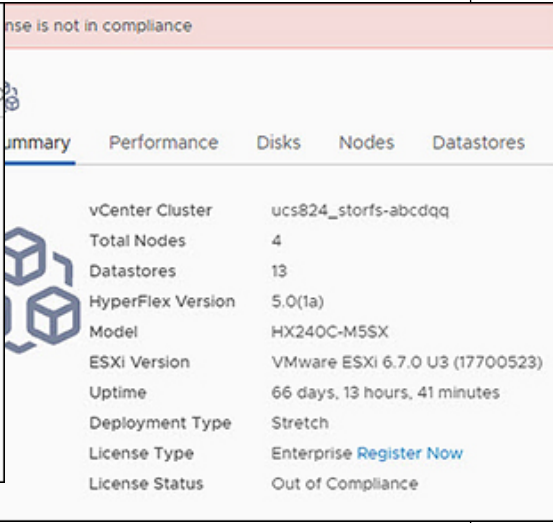
ライセンスの登録

新規ユーザは、ライセンスを登録するための 90 日間の猶予期間があります。90 日間は、すべての機能にフルアクセスできます。機能の完全なセットを引き続き使用するには、次の手順を実行して製品内リンクを使用してライセンスを登録します。

始める前に

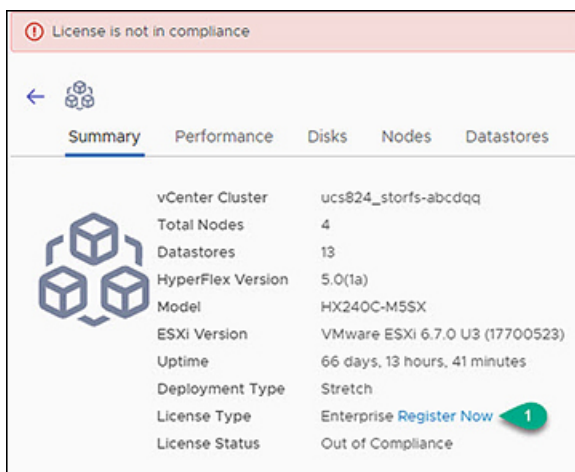
HX リリース 5.0 (1a) 以降、完全な HTML プラグイン機能を使用するには、ライセンスステータスがコンプライアンス違反である必要があります。[Summary] ページでライセンスタイプとステータスを確認します。ライセンスを登録する必要がある場合は、このタスクを実行します。

表 8: ライセンス コンプライアンスの例

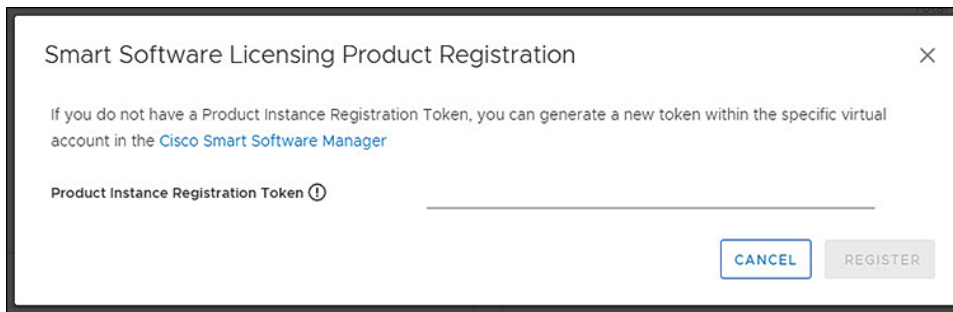
ライセンス コンプライアンス	コンプライアンス違反状態のライセンス
 <p>Summary Performance Disks Nodes Network</p> <p>vCenter Cluster ucs2121smb-ABCDEFGH</p> <p>Total Nodes 4</p> <p>Datastores 9</p> <p>HyperFlex Version 5.0(1a)</p> <p>Model HX220C-M5SX</p> <p>ESXi Version VMware ESXi 6.5.0 U3 (18071574)</p> <p>Uptime 33 days, 12 hours, 28 minutes</p> <p>Deployment Type Standard</p> <p>License Type Standard</p> <p>License Status In-compliance</p>	 <p>License is not in compliance</p> <p>Summary Performance Disks Nodes Datastores</p> <p>vCenter Cluster ucs824_storfs-abcdq</p> <p>Total Nodes 4</p> <p>Datastores 13</p> <p>HyperFlex Version 5.0(1a)</p> <p>Model HX240C-M5SX</p> <p>ESXi Version VMware ESXi 6.7.0 U3 (17700523)</p> <p>Uptime 66 days, 13 hours, 41 minutes</p> <p>Deployment Type Stretch</p> <p>License Type Enterprise Register Now</p> <p>License Status Out of Compliance</p>

ステップ 1 vSphere Web クライアントの [サマリー] ページで開始し、検出された HX クラスタ名をクリックしてその概要を表示します。

ステップ 2 [ライセンス タイプ] サマリーで、[今すぐ登録] リンクをクリックします。[スマート ソフトウェア ライセンシング製品の登録] ウィンドウが表示されます。



ステップ 3 提供されたフィールドに製品インスタンス登録トークンを入力します

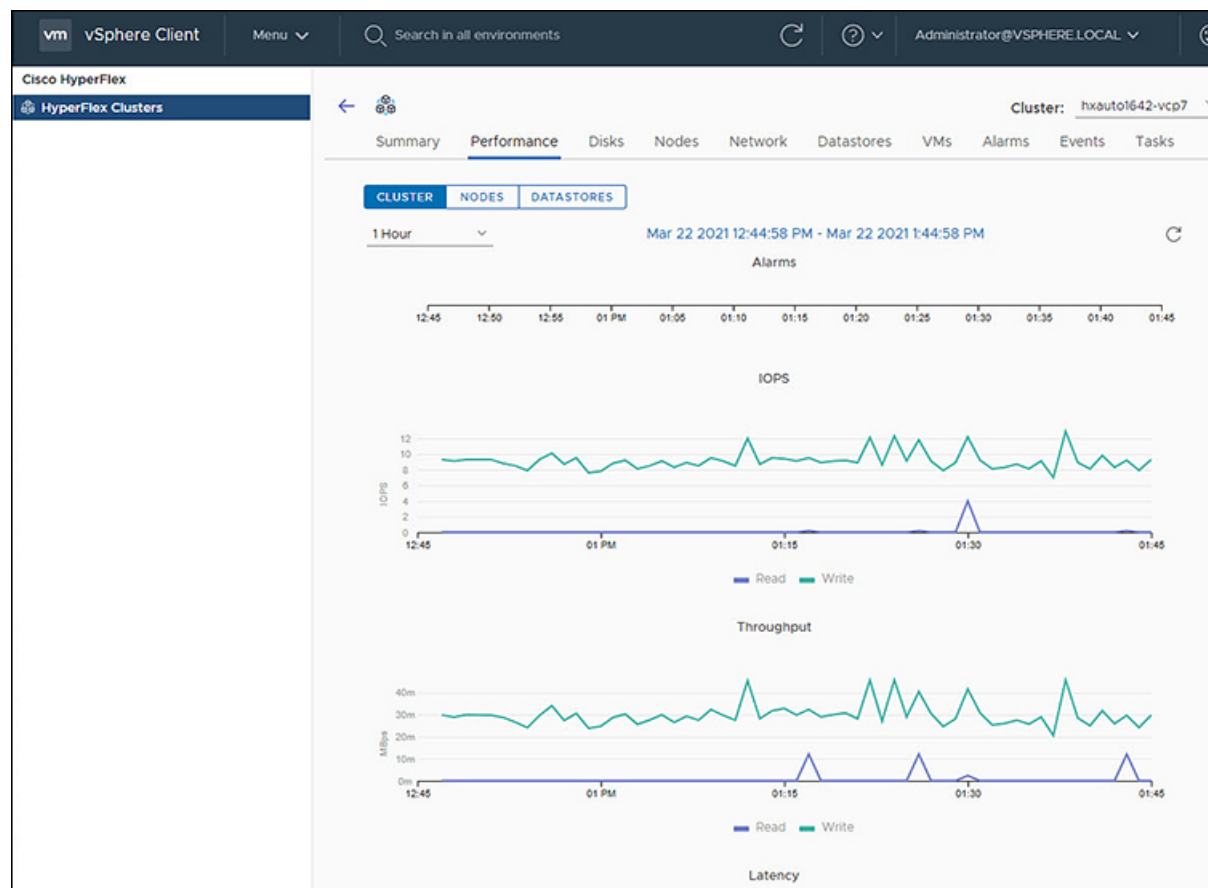


(注) 登録トークンが使用できない場合は、**[Cisco Smart Software Manager]** リンクをクリックして新しいトークンを生成し、プロンプトに従います。

ステップ 4 [アクション] をクリックして、登録を完了します。

クラスタおよびデータストアのパフォーマンス チャートの表示

[パフォーマンス (Performance)] タブには、1 時間前のクラスタとデータストアの両方のパフォーマンスの詳細が表示されます。



全般的な使用率:

- [時間間隔 (Time Interval)] リストをクリックして、パフォーマンス チャートに表示される時間の長さを選択します。



(注) [アラーム (Alarms)] チャートは、1 ヶ月以下の時間間隔を選択して表示されます。

- 右上のドロップダウン クラスタ リストを使用して、クラスタ間を移動します。
- 特定の時間の合計を表示するには、チャートの線にカーソルを合わせます。
- 表示を更新するには、[最新表示 (Refresh)] をクリックします。
- タイムゾーンを変更するには、現在の時間間隔をクリックし、[時間範囲 (Time Range)] ポップアップに入力して、[OK] をクリックします。表示される時間は、ブラウザの時間を反映しています。

始める前に

HX リリース 5.0 (1a) 以降、パフォーマンスチャートはライセンスステータスが [In-compliance] の場合にのみ表示されます。

ステップ 1 vSphere Web クライアントにログインします。

ステップ 2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] を選択します。

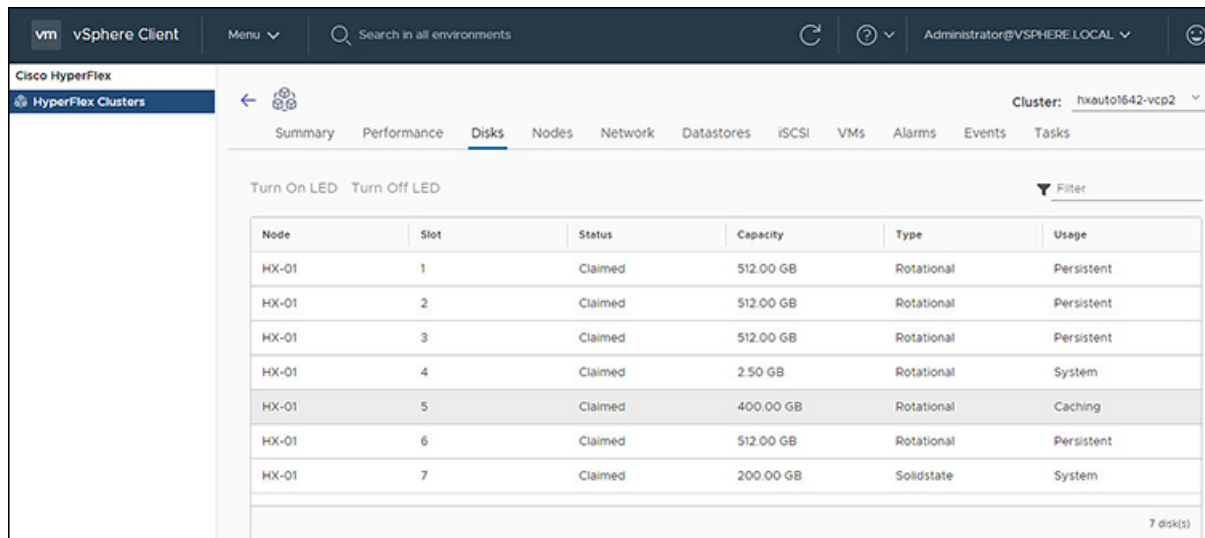
ステップ 3 確認する HX クラスタをクリックします。

ステップ 4 [パフォーマンス (Performance)] タブを選択します。Alarms、IOPS、ThroughPut、および Latency チャートが表示されます。

ステップ 5 [時間間隔 (Time Interval)] リストをクリックして、パフォーマンス チャートに表示されるタイム スパンを選択します。

ディスク

[ディスクの詳細] ページを表示するには、次の手順を実行します。



ステップ 1 vSphere クライアントにログインします。

ステップ 2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] を選択します

ステップ 3 表示するクラスタ名をクリックします。

ステップ 4 [クラスタ サマリ] タブを使用して、[ディスク] をクリックします。
[ディスクの詳細] ビューが表示されます。

表 9: ディスクの詳細

フィールド名	その他の情報
ノード	ノード名
スロット	スロット番号
ステータス	スロット ステータス。有効な値 : Available または Claimed
容量	スロットの合計容量
タイプ	ディスクのタイプ。有効な値は次のとおりです。回転、ソリッドステート
使用方法	ディスクの使用方法。有効な値は次のとおりです。Caching、Persistence、System

ステップ 5 (オプション) [LED をオンにする] ボタンを使用して物理サーバを特定します。

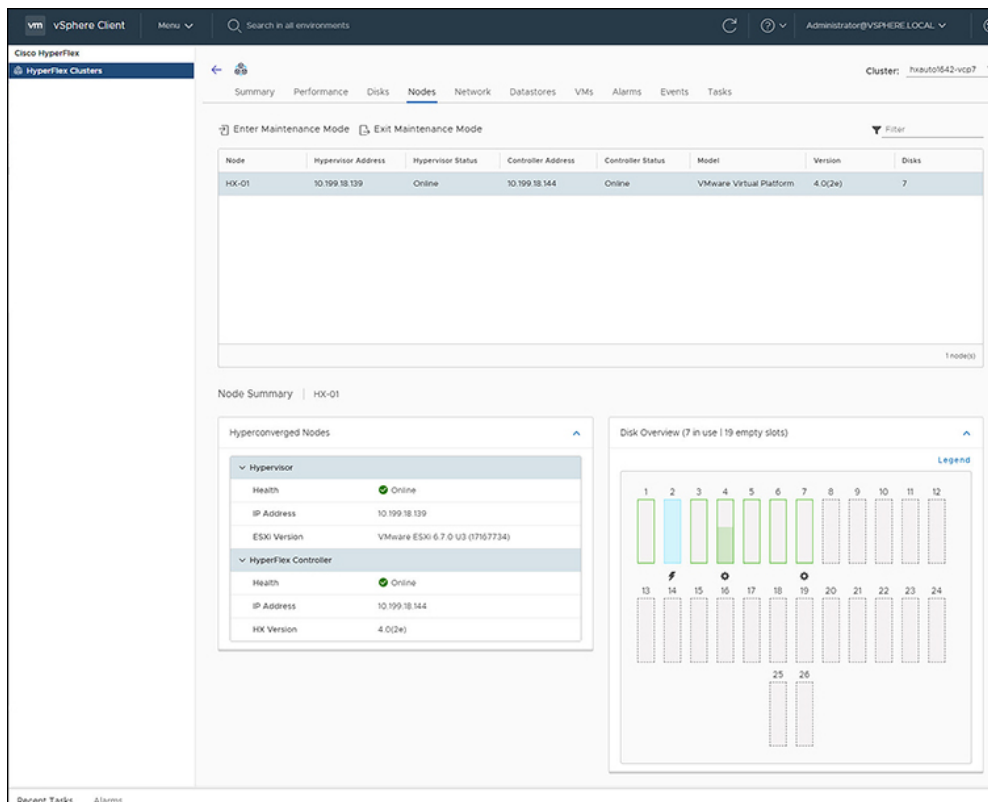
(注) HX リリース 5.0 (1a) 以降、オン/オフ LED ボタン機能では、ライセンスステータスが In-compliance である必要があります。

a) **オン LED** ボタンをクリックして、関連する物理サーバの LED ライトを点灯させます。

b) 完了したら、[オフ LED] ボタンをクリックして LED ライトをオフにします。

ノード

クラスタ、ホスト、および ノード に固有の VM の詳細を表示するには、次の手順を実行しま



す。

ステップ 1 vSphere クライアントにログインします。

ステップ 2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] を選択します

ステップ 3 表示するクラスタ名をクリックします。

ステップ 4 [クラスタ サマリ] タブを使用して、[ノード] をクリックします。
[ノード] リストが表示されます。

表 10: ノードリストの詳細

フィールド名	その他の情報
ノード	ノード名。
ハイパーバイザ アドレス	ハイパーバイザの IP アドレス。
ハイパーバイザ ステータス	ハイパーバイザ ステータス。有効な値は、Online と Offline です。

フィールド名	その他の情報
コントローラ アドレス	コントローラの IP アドレス。
コントローラ のステータス	コントローラ のステータス。有効な値は、Online と Offline です。
モデル	ノードのタイプ。
バージョン	使用中の HXDP バージョン。
ディスク	ノードに関連付けされたディスクの数です。
サイト	列は、エッジ展開の場合にのみ表示されます。

ステップ 5 詳細を表示するノード名をクリックします。[Node Summary]ポートレットが[Nodes]リストの下に表示されます。

- a) [ノード サマリー] ビューには、ノードに関する追加の詳細情報を持つ 2 つのポートレット（ハイパーコンバージド ノードとディスクの概要）が含まれています。

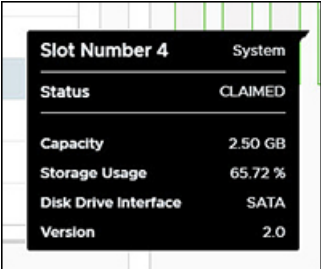
矢印を使用して、ポートレットの内容を折りたたんだり展開したりします。

表 11: ハイパーコンバージド ノード ポートレット

フィールド名	その他の情報
ハイパーバイザ	ヘルス : オンラインまたはオフライン IP アドレス : ハイパーバイザの IP アドレス ESXi バージョン : インストールされた ESXi バージョン
HyperFlex コントローラ	ヘルス : オンラインまたはオフライン IP アドレス : HyperFlex コントローラの IP アドレス HX バージョン : インストールされている HyperFlex リリース

表 12: ディスク概要ポートレット

フィールド名	その他の情報
ディスクの概要	使用中のスロットの数と空の数を記録します。
凡例 (Legend)	ディスクグラフィックスで使用されるアイコンと色の凡例。

フィールド名	その他の情報
ディスクグラフィック	<p>ディスクにカーソルを合わせると、そのディスクの詳細が表示されます。</p>  <p>詳細には次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スロット番号と使用タイプ • ディスクステータス：請求済みまたは未請求 • 容量 • ストレージ使用率（パーセンテージ）。 • ディスク ドライブ インターフェイス • バージョン

ステップ 6 (オプション) メンテナンス モードを開始または終了します

- メンテナンス モードを開始するか、終了するノード名をクリックします。
- [メンテナンス モードの開始] または [メンテナンス モードの終了] をクリックします。

(注) HX リリース 5.0 (x) 以降では、ライセンス ステータスが [In-compliance] の場合、[メンテナンス モードの開始または終了] ボタン機能が有効になります。

(注) 3 ノードまたは 4 ノードのクラスタがある場合、1 つのノードのみがメンテナンス モードになります。

ネットワーク

ネットワーク：新しいVLANの作成

[ネットワーク (Network)] ページでは、UCS を経由せずに VLAN を作成できます。vSphere クライアントから VLAN を作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 vSphere クライアントにログインします。

ステップ2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] > [VLAN の作成] を選択します

ステップ3 [VLAN の作成] ウィンドウが表示されます。
[VLAN の作成] ウィンドウのフィールドに入力します。

表 13: VLAN の作成

フィールド名	その他の情報
VLAN ID	1 つの VLAN を作成するには、単一の数値 ID を入力します。VLAN ID には次の値を入力できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 ~ 3967 • 4049 ~ 4093
VLAN 名	この名前には、1 ~ 32 文字の英数字を使用できます。スペースや特殊記号を使用できません。また、オブジェクトを保存した後はこの名前を変更できません。
UCS Manager のホスト IP または FQDN	UCS Manager の FQDN または IP アドレス たとえば、10.193.211.120 とします
UCS ユーザ名	<管理者> ユーザ名。 たとえば、sample_user1
UCS パスワード	<root> パスワード。

ステップ4 [OK] をクリックします。
VLAN が作成されます。

(注) VLAN の作成は一方方向の操作です。HTML プラグインで VLAN を表示することはできません。新しく作成された VLAN を確認するには、UCS に移動し、ESXi vSwitch で新しく作成された VLAN を確認します。

ネットワーク : iSCSI ネットワークの設定

[Network] ページでは、iSCSI ネットワークを設定できます。vSphere クライアントから iSCSI ネットワークを作成するには、次の手順を実行します。

始める前に

iSCSI 機能は、Cisco HyperFlex リリース 4.5 (x) 以降でサポートされています。

ステップ1 vSphere クライアントにログインします。

ステップ2 [メニュー] > [Cisco HyperFlex] > [ネットワーク設定] > [設定] を選択します

ステップ 3 [Create iSCSI Network] ウィンドウが表示されます。
[Create iSCSI Network] ウィンドウのフィールドに入力します。

フィールド名	その他の情報
サブネット	有効なサブネットを入力してください
ゲートウェイ	有効なゲートウェイを入力してください
IP範囲	有効な IP 範囲を入力してください [編集 (Edit)] ボタンを使用して、IP 範囲を変更します。その他すべてのフィールドも無効になります。
iSCSI ストレージ IP	iSCSI ストレージの有効な IP アドレスを入力してください
VLAN 設定	[新しい VLAN の作成 (推奨) (Create a new VLAN (Recommended))] または [既存の VLAN を選択 (Select an existing VLAN)] のチェックボックスをクリックします。 新しい VLAN を作成するには、VLAN ID、VLAN 名、UCS Manager ホスト IP または FQDN、ユーザ名 (UCS での認証のためのユーザ名)、パスワード (UCS での認証のためのパスワード) を指定する必要があります。 既存の VLAN を選択するには、VLAN ID を指定する必要があります。 (注) UCS-M で VLAN を手動で設定するには、[Create VLAN] メニューオプションを使用します。[Create VLANs] ウィンドウで、チェックボックスをそのままにします。HX の vNIC テンプレートで、VLAN を「vNIC Template storage-data-a」および「vNIC Template storage-data-b」に接続します。この設定は中断されません。
非デフォルト MTU の設定	MTU (メッセージトランスポートユニット) の手動設定を有効にするチェックボックス。MTU は、ネットワーク全体で 1 回のデータ伝送で送信できるネットワークフレームの最大サイズを定義します。デフォルト MTU サイズは 9000 です。 ジャンボフレームを無効にするには、 [非デフォルト MTU を設定] チェックボックスをクリックし、プルダウンを使用して値を 1500 に変更します。 (注) イニシエータのいずれかがルータを通過する場合、ルータはジャンボフレームを許可する必要があります。

ステップ 4 **[OK]** をクリックします。
iSCSI ネットワークが作成されます。

ステップ5 [タスク (Tasks)] ページで、iSCSI ネットワークが作成されたことを確認します。

iSCSI

iSCSI: ターゲット

iSCSI ネットワークが作成されると、iSCSI ページがナビゲーションタブのリストに表示されます。デフォルト ビューは [ターゲット (Targets)] で、[Create]、[Edit]、[Delete]、および [Clone LUN] ボタンを使用して iSCSI ターゲットを管理します。



(注) iSCSI ページは、iSCSI ネットワークが設定されているクラスタのナビゲーションタブにのみ表示されます。

The screenshot displays the iSCSI configuration interface in the VMware vSphere Client. The 'iSCSI' tab is active, showing a list of targets and a section for linked LUNs.

Target Name	Linked Initiators Groups	LUN	IGN	Active Initiators	CHAP Authentication
TARGET-NEW1	0	1	iqn.1987-02.com.cisco.iscsi.TARGET-NEW1	0	Disabled
Target-7vc	0	3	iqn.1987-02.com.cisco.iscsi.Target-7vc	0	Enabled
krupal	0	2	iqn.1987-02.com.cisco.iscsi.krupal	0	Disabled
t1	0	1	iqn.1987-02.com.cisco.iscsi.t1	0	Disabled
t2	0	1	iqn.1987-02.com.cisco.iscsi.t2	0	Disabled

Name	LUN ID	Serial Number	Size	Used	Available
Krupal-test1093==	LUN1	c4c371a3358e45efa4ce7710347960b0	1.00 GB	0 B	1.00 GB

始める前に

- iSCSI 機能は、Cisco HyperFlex リリース 4.5 (x) 以降でサポートされています。
- HX リリース 5.0 (1a) 以降では、ライセンス ステータスが [In-compliance] の場合、[Create] および [Delete] ボタンが有効になります。
- iSCSI ネットワークの作成 [ネットワーク : iSCSI ネットワークの設定 \(25 ページ\)](#)

- ステップ 1** vSphere クライアントにログインします。
- ステップ 2** [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] を選択します
クラスタのリストが表示されます。
- ステップ 3** iSCSI ネットワークが設定されているクラスタを選択します。
[iSCSI Network] ページが表示され、[Targets]、[Initiator Groups]、および [LUNs] ボタンが表示されます。
ビュー間を移動するには、ボタンを使用します。
- ステップ 4** [Targets] ボタンをクリックして、ターゲットのリストを [Create]、[Edit]、[Clone LUN] および [Delete] ボタンとともにテーブルに入力します。

表 14: ターゲットリスト

フィールド名	その他の情報
ターゲット名 (Target Name)	iSCSI サーバ上の iSCSI ストレージリソースの名前。
リンクされたイニシエータグループ (Linked Initiators Groups)	クラスタ上のリンクされたイニシエータグループの数。
LUN	イニシエータグループ内の LUN の数。
IQN	イニシエータの修飾名 (IQN) です。 IQN は iqn.yyyy-mm.naming-authority:unique name の形式を取ります。
アクティブなイニシエータ数 (Active Initiators Count)	アクティブなイニシエータの合計数。
CHAP 認証	共有秘密とチャレンジメッセージを使用してリモートクライアントの ID を検証する認証方式。

- ステップ 5** リストからターゲットを選択すると、選択したターゲットに関連付けられているすべての LUN が表示されます。ターゲットリストの下のポートレットに表示されます。[Create]、[Edit]、[Clone LUN]、および [Delete] ボタンを使用して、選択したターゲットで LUN を作成、編集、複製、または削除します。

表 15: LUN 詳細ポートレット

フィールド名	その他の情報
名前	LUN 名
LUN ID	LUN の一意の ID
シリアル番号	LUN のシリアル番号
サイズ	LUN の合計容量サイズ (GB)
使用済み (Used)	使用されている LUN の合計キャパシティ (GB)

フィールド名	その他の情報
使用可能 (Available)	使用可能な LUN の合計容量 (GB)

関連トピック

[\[iSCSI LUN\] ページ](#)

[iSCSI LUN の作成](#)

[iSCSI LUN の編集](#)

[iSCSI LUN のクローン作成](#)

[iSCSI LUN の削除](#)

[\[Configure\] タブからの iSCSI および データストア の概要 の表示 \(51 ページ\)](#)

iSCSI: イニシエータ グループ

[iSCSI] ページの **[イニシエータ グループ (Initiator Groups)]** ボタンを使用して、イニシエータ グループを作成、編集、および削除します。

The screenshot shows the VMware vCenter interface for configuring iSCSI Initiator Groups. The main content area displays a table of Initiator Groups with the following data:

Initiators Group	Initiator Count
ABINIT	1
test	2
testdiksha	1
testinit	1

Below the table, there are sections for 'INITIATORS' and 'LINKED TARGETS'. The 'LINKED TARGETS' section shows a list of targets with checkboxes for linking or unlinking:

Targets
clonetarget1

始める前に

- iSCSI 機能は、Cisco HyperFlex リリース 4.5 (x) 以降でサポートされています。
- HX リリース 5.0 (1a) 以降では、ライセンス ステータスが [In-compliance] の場合、[Create] および [Delete] ボタンが有効になります。

ステップ 1 vSphere クライアントにログインします。

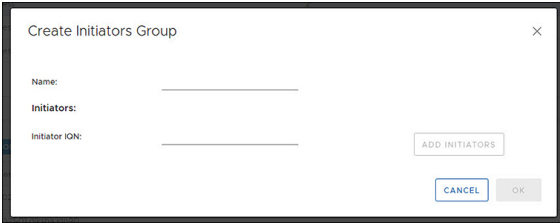

ステップ 2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] > [iSCSI] を選択します
[iSCSI Network] ページが表示され、[Targets]、[Initiator Groups]、および [LUNs] ボタンが表示されます。
ビュー間を移動するには、ボタンを使用します。

ステップ 3 [イニシエータ グループ (Initiator Groups)] ボタンをクリックし、[作成 (Create)]、[編集 (Edit)]、および [削除 (Delete)] ボタンとともに、イニシエータ グループのリストをテーブルに入力します。

表 16: イニシエータ グループ リスト

フィールド名	その他の情報
イニシエータ グループ	クラスタ上の指定された LUN にアクセスできるホストを指定するグループのリスト。
イニシエータ	グループ内のイニシエータの数。

表 17: イニシエータ グループ アクション ウィンドウの例

アクション ウィンドウ名	例
イニシエータ グループの作成	
イニシエータ グループの編集	

ステップ 4 リストからイニシエータ グループを選択すると、リストの下の詳細ポートレットにイニシエータのリストが表示されます。

ステップ 5 [イニシエータ (Initiators)] ボタンをクリックして、グループ内の個々のイニシエータを表示します。

ステップ 6 [リンクされたターゲット (Linked Targets)] ボタンをクリックして、選択したグループに関連付けられているターゲットを表示します。

ステップ7 [リンク (Link)] および [リンク解除 (Unlink)] ボタンを使用して、ターゲットをグループにリンクおよびリンク解除します。

関連トピック

[iSCSI イニシエータ グループ](#)

[iSCSI イニシエータ グループの作成](#)

[iSCSI イニシエータ グループの編集](#)

[iSCSI イニシエータ グループの削除](#)

[iSCSI イニシエータ グループをターゲットにリンク](#)

[iSCSI イニシエータ グループのリンク解除](#)

[\[Configure\] タブからの iSCSI および データストアの概要の表示 \(51 ページ\)](#)

iSCSI: LUNs

LUNを作成するには、[LUNS] ボタンを使用し、[LUN] ボタンを使用してLUNを管理します。

Name	Mount Summary	Status	Provisioned	Used	Free
ds	MOUNTED	NORMAL	50.00 GB	4.00 GB	46.00 GB
ds-source	MOUNTED	NORMAL	3.00 TB	82.87 GB	2.92 TB
ds10	MOUNTED	NORMAL	1.00 GB	0 B	1.00 GB
ds11	MOUNTED	NORMAL	1.00 GB	0 B	1.00 GB
ds14	MOUNTED	NORMAL	1.00 GB	0 B	1.00 GB

Details

Total:
 Status: MOUNTED
 Provisioned: 3.00 TB
 VMs: 22

Trends

1 Hour: Mar 25 2021 3:57:42 PM - Mar 25 2021 4:57:42 PM
 IOPS:

始める前に

- iSCSI 機能は、Cisco HyperFlex リリース 4.5 (x) 以降でサポートされています。
- HX リリース 5.0 (1A) 以降では、ライセンス ステータスが [In-compliance] の場合、[Create]、[Delete]、および [Clone LUN] ボタンが有効になります。

ステップ1 vSphere クライアントにログインします。

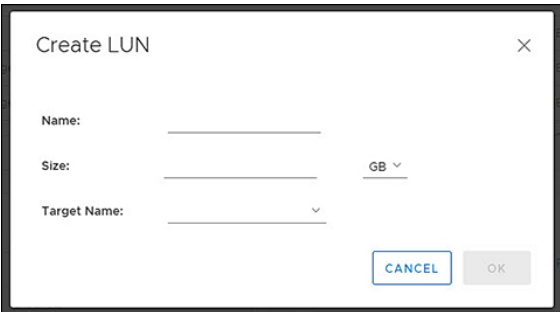

ステップ 2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] > [iSCSI] を選択します


ステップ 3 [LUNS] ボタンをクリックして、[作成 (Create)]、[編集 (Edit)]、[クローン LUN (Clone LUN)]、および [削除 (Delete)] ボタンとともに LUN のリストをテーブルに入力します。

表 18: LUN 詳細ポートレット

フィールド名	その他の情報
名前	LUN 名
LUN ID	LUN の一意の ID
シリアル番号	LUN のシリアル番号
サイズ	LUN の合計容量サイズ (GB)
使用済み (Used)	使用されている LUN の合計キャパシティ (GB)
使用可能 (Available)	使用可能な LUN の合計容量 (GB)

表 19: iSCSI LUN アクション ウィンドウの例

アクション ウィンドウ名	例
LUN の作成	
LUN の編集	

アクションウィンドウ名	例
クローン LUN	

ステップ 4 リストで LUN を選択すると、LUN リストの下に [詳細ポートレット (Details Portlet)] と [パフォーマンスチャート (Performance Charts)] が表示されます。

関連トピック

[\[Configure\] タブからの iSCSI および データストアの概要の表示 \(51 ページ\)](#)

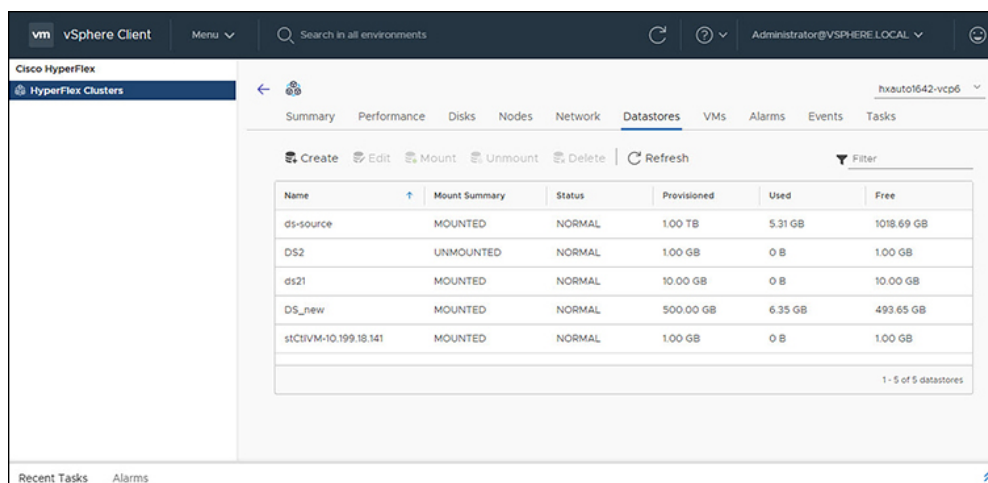
HX データストア管理

データストアの管理

[データストア (Datastore)] ページでは、データストアの詳細の表示、クラスタ上のデータストアの作成、編集、マウント、アンマウント、または削除ができます。



(注) HX リリース 5.0 (1a) 以降、ライセンスステータスが [In-compliance] の場合、[Create and Store Datastore] ボタンが有効になります。



ステップ 1 vSphere クライアントにログインします。

ステップ 2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] を選択します

ステップ 3 該当するクラスタをクリックします。

ステップ 4 データストアをクリックします。

[データストア詳細テーブル (Datastore Detail Table)] が表示されます。矢印を使用して、データストアの次または前のページ、および最初または最後のページに進みます。

表 20: データストアテーブルの詳細

フィールド名	その他の情報
名前	データストア名
マウント サマリー	マウントまたはアンマウント
ステータス	データストアのステータス: 有効な値は次のとおりです: 正常
プロビジョニング	プロビジョニングされたスペースの量
Used	使用領域
Free	使用可能なスペースの量

ステップ 5 テーブル内のデータストア名をクリックすると、データストアの追加の詳細が表示されます。

[詳細 (Details)] ポートレットと [トレンド (Trends)] ポートレットがテーブルの下に表示されます。

表 21: 詳細ポートレット

フィールド名	その他の情報
Total	プロビジョニングされ使用されているスペースのグラフ
Status	マウントまたはアンマウント
プロビジョニング	プロビジョニングされたスペースの量
VM	データストア内で作成された VM の数 VM の数 (数値) をクリックすると、そのデータストアのすべての VM をリストする [データストア (Datastore)] ページに直接移動します。

表 22: トレンド ポートレット

フィールド名	その他の情報
一般的な使用率:	<ul style="list-style-type: none"> • [時間間隔 (Time Interval)] リストをクリックして、パフォーマンス チャートに表示される時間の長さを選択します。 • 特定の時間の合計を表示するには、チャートの線にカーソルを合わせます。 • 表示を更新するには、[最新表示 (Refresh)] をクリックします。 • [クラスタのスキャン (Scanning Cluster)] アイコンは、クラスタテーブルにまだデータが入力されていることを示します。クラスタリストが完了すると、アイコンが消えます。 • タイムゾーンを変更するには、現在の時間間隔をクリックし、[時間範囲 (Time Range)] ポップアップに入力して、[OK] をクリックします。表示される時間は、ブラウザの時間を反映しています。
IOPS	IOPS パフォーマンス チャートの表示
スループット	スループット パフォーマンス チャートの表示
遅延	遅延パフォーマンス チャートの表示

表 23: ホストポートレット

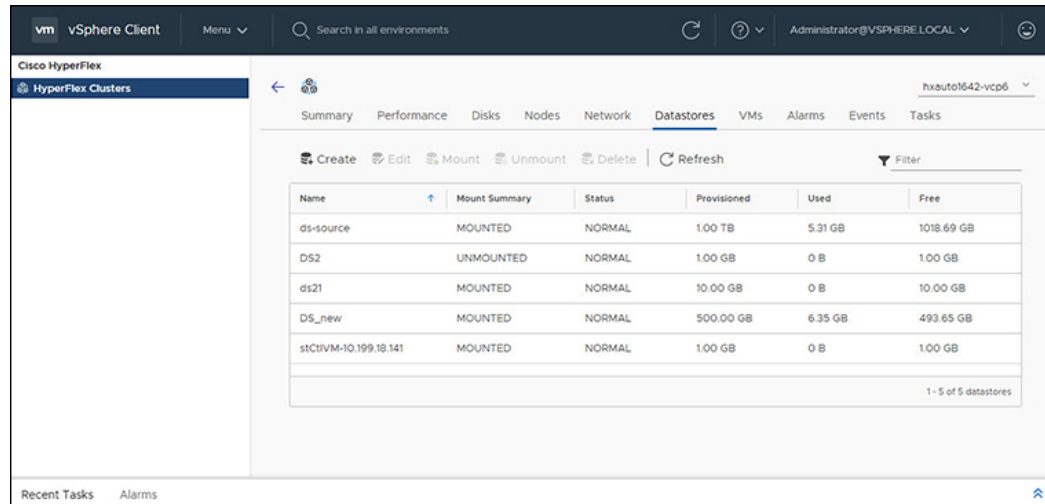
フィールド名	その他の情報
ホスト名	選択したデータストアのホストの IP アドレスを表示します。
Mount Status	ホストがマウントされているかマウント解除されているかを指定します。
アクセス可能	ホストがアクセス可能かどうかを指定します。

関連トピック

[\[Configure\] タブからの iSCSI およびデータストアの概要の表示](#) (51 ページ)

新しいデータストアの作成

新しいデータストアを作成するには:



始める前に

- HX リリース 5.0 (1a) 以降、ライセンス ステータスが [In-compliance] の場合、[Create Datastore] ボタンが有効になります。
- vSphere クライアントにログインし、[メニュー] > [Cisco HyperFlex] を選択します。

ステップ 1 該当するクラスタをクリックします。

ステップ 2 データストアをクリックします。

ステップ 3 [Create] ボタンをクリックします。[データストア (Datastore)] ウィンドウが表示されます。

- データストア名を入力します
- [サイズ (Size)] を入力し、[GB] または [TB] を選択します。
- ブロック サイズを選択し、4K または 8K を選択します。

ステップ 4 [OK] をクリックします。新しいデータストアが作成され、データストアテーブルリストに追加されます。

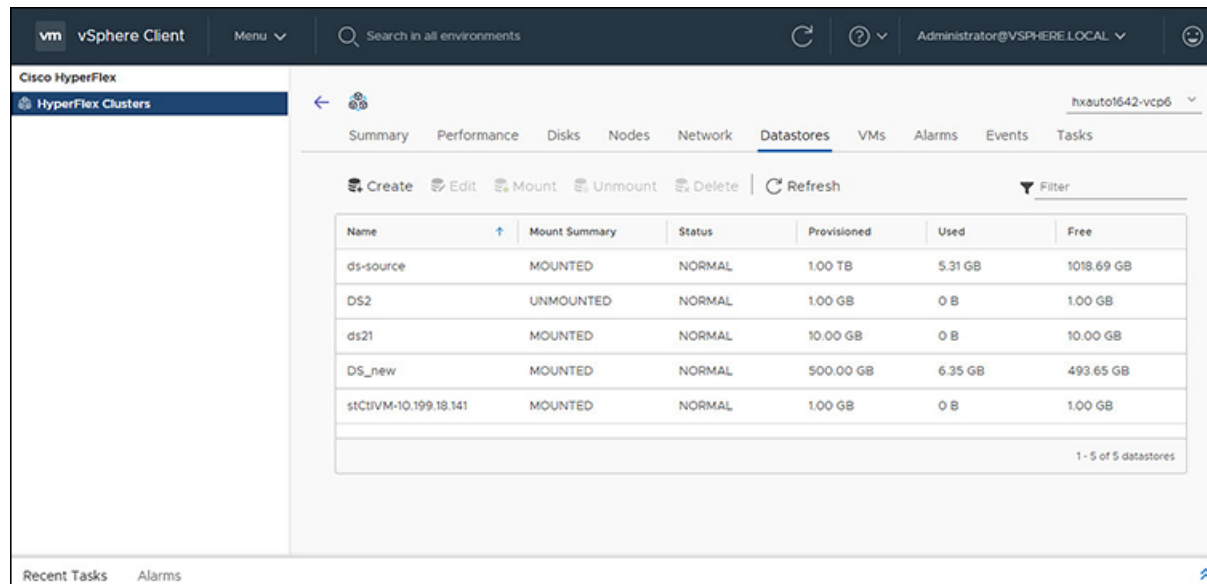
ステップ 5 新しいデータストアがリストに表示されない場合は、[更新 (Refresh)] 矢印をクリックしてリストを再確認します。

データストアの編集

既存のデータストアを編集するには、次の手順を実行します。



(注) データストアの名前は、アンマウントされた後にのみ変更できます。



始める前に

vSphere クライアントにログインし、[メニュー]>[Cisco HyperFlex] を選択します。

ステップ1 該当するクラスタをクリックします。

ステップ2 [データストア (Datastore)] をクリックし、[編集 (Edit)] アクションの [データストア (Datastore)] を選択します。

ステップ3 [Edit] ボタンをクリックします。[データストアの編集 (Edit Datastore)] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 データストアの詳細を編集します。

ステップ5 [OK] をクリックして変更を保存します。データストア情報が更新されます。

データストアのマウントまたはアンマウント

[Mount] ボタンと [Unmount] ボタンは、データストアの現在のステータスに基づいてアクティブになります。マウントされたデータストアには、データストアをマウント解除するオプションがあり、マウントされていないデータストアには、データストアをマウントするオプションがあります。データストアのマウントまたはアンマウント:

始める前に

- マウント解除アクションを開始する前に、データストアに作成または登録された VM を削除します。
- vSphere クライアントにログインし、[メニュー]>[Cisco HyperFlex] を選択します。

ステップ1 該当するクラスタをクリックします。

■ データストアの削除

ステップ2 **[Datastore]** をクリックし、**[Datastore for Mount (Unmount)]** アクションを選択します。

ステップ3 **[Mount] ([Unmount])** ボタンをクリックします。

[データストアをマウント (マウント解除) しますか? (Do you want to mount (Unmount) the datastore?)] という確認の質問が [データストアをマウント (アンマウント)] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 **[OK]** をクリックして **[Mount (Unmount)]** アクションを続行するか、**[Cancel]** をクリックして **[Mount (またはUnmount) Datastore]** ウィンドウを終了します。データストアのステータスが **[マウント済み (Mounted)]** から **[マウント解除 (Unmounted)]** または **[マウント解除済み (Unmounted)]** から **[マウント済み (Mounted)]** に変更されます。

データストアの削除

データストアの削除

始める前に

- HXリリース5.0 (1a) 以降、ライセンスステータスが **[In-compliance]** の場合、**[Delete Datastore]** ボタンが有効になります。
- [データストアの削除 (Delete Datastore)] アクションを開始する前に、データストアに作成または登録されたVMを削除し、データストアをマウント解除します。
- vSphere クライアントにログインし、**[メニュー] > [Cisco HyperFlex]** を選択します。

ステップ1 該当するクラスタをクリックします。

ステップ2 **[データストア (Datastore)]** をクリックし、**[削除 (Delete)]** アクションのための **[データストア (Datastore)]** を選択します。

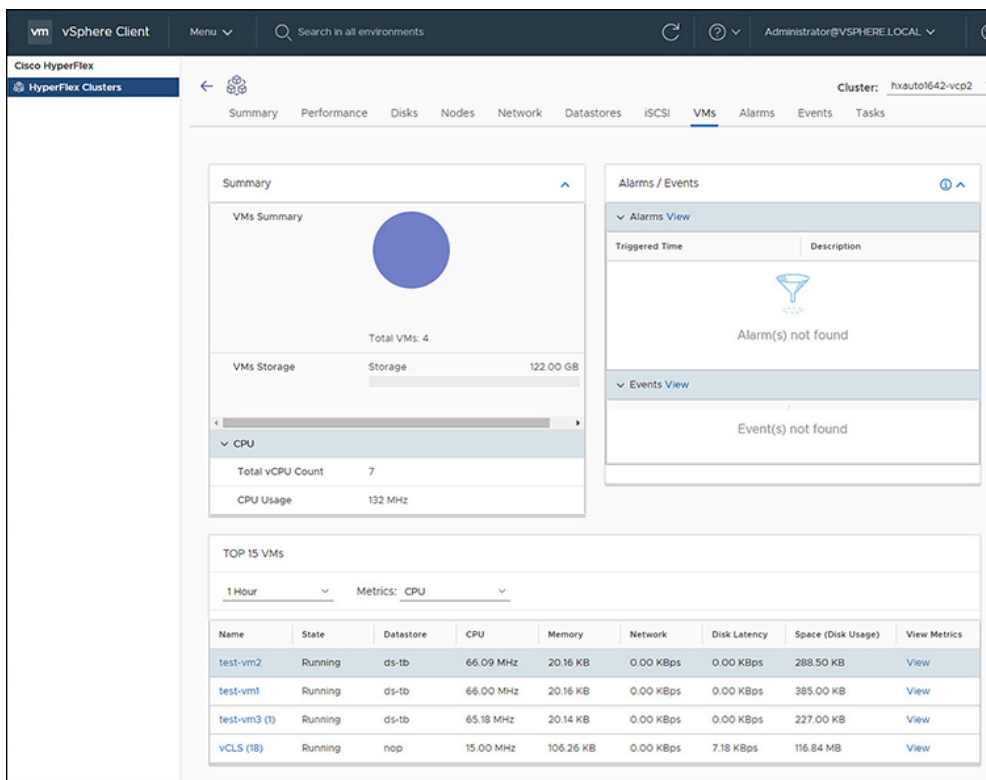
ステップ3 **[削除 (Delete)]** ボタンをクリックします。

[データストアの削除 (Delete Datastore)] ウィンドウに「Do you want to delete the datastore?」という確認の質問が表示されます。

ステップ4 **[OK]** をクリックして削除アクションを続行するか、**[キャンセル (Cancel)]** をクリックして **[データストアの削除 (Delete Datastore)]** ウィンドウを終了します。選択したデータストアがデータストア テーブル リストから削除されます。

VM

クラスタ、ホスト、およびVMに固有のVMの詳細を表示するには、次の手順を実行します。



ステップ 1 vSphere クライアントにログインします。

ステップ 2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] を選択します

ステップ 3 表示するクラスタ名をクリックします。

ステップ 4 [クラスタ サマリ (Cluster Summary)] タブを使用して、[VM] をクリックします。

[VM の詳細 (VM Detail)] には、[概要 (Summary)]、[アラーム/イベント (Alarms/Events)]、および [上位 15 個 (Top 15)] の 3 つのポートレットが表示されます。

表 24: サマリーポートレット

フィールド名	その他の情報
VM の概要	<p>使用中のユーザ VM の使用状況図。カーソルを合わせると、実行中、一時停止中、オフの VM の数が表示されます。</p> <p>Total VMs : すべてのユーザ VM の合計数。</p> <p>(注) コントローラ VM はサマリーに含まれません。</p>
VM ストレージ	<p>すべてのユーザ VM ストレージの合計。すべてのユーザ VM の合計ストレージ容量がイメージの上に表示されます。グラフィックにカーソルを合わせると、現在使用されているストレージの量が表示されます。</p>

フィールド名	その他の情報
VM メモリ	ポイントインタイムメモリの量。合計メモリ容量が表示されます。グラフィックの上にカーソルを合わせると、現在のメモリ使用量が表示されます。
CPU	Total vCPU Count : クラスタ内のすべての VM の合計 CPU 数。 CPU 使用率 : 特定の CPU が使用している 1秒あたりのサイクル数。

表 25: アラーム/イベントポートレット

フィールド名	その他の情報
アラーム	過去 1週間 (7日間) の VM のアラームを表示します。 [アラームの詳細 (Alarms Details)] ビューに移動するには、[表示 (View)] をクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> • トリガ時刻 : アラームの発生時刻。 • 説明 : アラームの説明。
イベント	先週 (7日間) の VM のイベントを表示します。 [表示 (View)] をクリックして、[Events Details] ビューに移動します。 <ul style="list-style-type: none"> • 日時 : イベントが発生した日付と時刻。 • 説明 : イベントの説明。

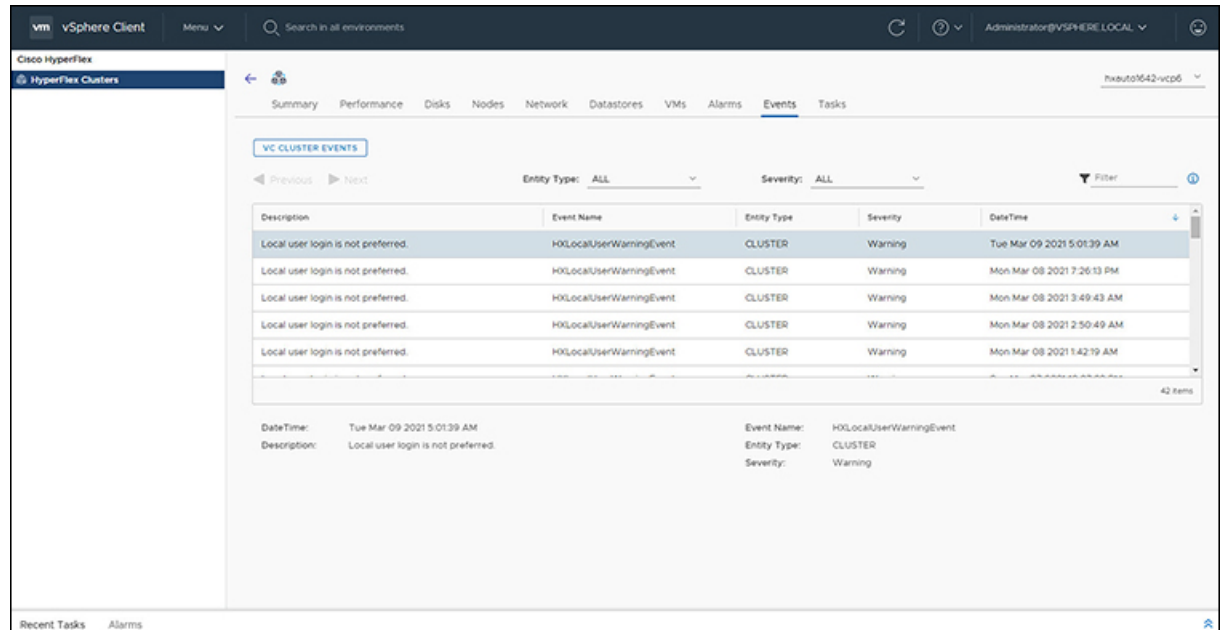
表 26: 上位 15 の VM ポートレット

フィールド名	その他の情報
時間リスト	上位 15 の VM を表示する時間の測定値を指定します。リストのオプションには、1 時間、1 日、または 1 週間があります。
メトリックリスト	テーブルの入力に使用するメトリックタイプを選択します。オプションには、CPU、メモリ、ディスク遅延、ネットワーク、およびスペースがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • CPU、メモリ、ディスク遅延、ネットワーク-実行状態の VM のメトリックのみをレポートします。スイッチがオフになっている VM は含まれません。 • スペース : 状態に関係なくすべての VM をカウントします。
名前	VM 名 : VM 名をクリックすると、vCenter で表示されている VM のグラフまたはモニタリングページにユーザがリダイレクトされます。

フィールド名	その他の情報
状態	VM の現在の状態。有効な値は、Running、Off、および Suspended です。
データストア	データストア名 (Datastore Name)
CPU	間隔に使用されるメガヘルツ単位の CPU 使用率。
メモリ	ゲスト物理メモリページのバックアップに消費されたホスト物理メモリの量。
ディスク遅延	ホストが使用するすべてのディスクで最大の遅延値
ネットワークスループット	間隔中のネットワーク使用率（送信レートと受信レートの組み合わせ）。
スペース（ディスク使用量）	VM が使用しているディスク容量
メトリックを表示	指定した VM の CPU、メモリ、ディスク遅延、およびネットワークスループットのパフォーマンステーブルを表示するためのリンク。表示される使用率の値は、すべての 5 分間の平均値です。 ホバー機能を使用して、マトリックスを同時に表示し、データ内の目に見えるスパイクを評価します。

イベント

クラスタ、ノード、ホスト、VM、またはディスクに固有のイベントを表示するには、次の手順を実行します。



ステップ 1 vSphere クライアントにログインします。

ステップ 2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] を選択します。

ステップ 3 表示するクラスタ名をクリックします。

ステップ 4 [クラスタ サマリ (Cluster Summary)] タブを使用して、[イベント (Events)] をクリックします。
[イベント詳細 (Events Detail)] ビューが表示されます。

表 27: Event Details

フィールド名	その他の情報
説明	テキストによるイベントの説明。
イベント名	イベント名
エンティティ タイプ	影響を受けるエンティティ。値には、All、Cluster、Node、Virtual Machine、および Disk が含まれます。
シビラティ (重大度)	イベントのシビラティ (重大度) レベル有効な値は、All、Info、Warning、Error、および Critical です。
日時 (DateTime)	イベントの発生日時

ステップ 5 (オプション) イベント テーブルに表示される結果を制限するには、フィルタを使用します。

Filter	フィルタ オプション
エンティティ タイプ	All、Cluster、Node、Virtual Machine、および Disk

Filter	フィルタ オプション
シビラティ (重大度)	All、Info、Warning、Error、および Critical
Filter	[フィルタ (Filter)]オプションにキーワードを入力して、ブラウザに表示されるテーブルの内容をフィルタリングします。

ステップ 6 イベントのリストで、詳細情報が必要なイベント名をクリックします。
[イベント (Events)] テーブルの下に詳細が表示されます。詳細には次の情報が含まれます。

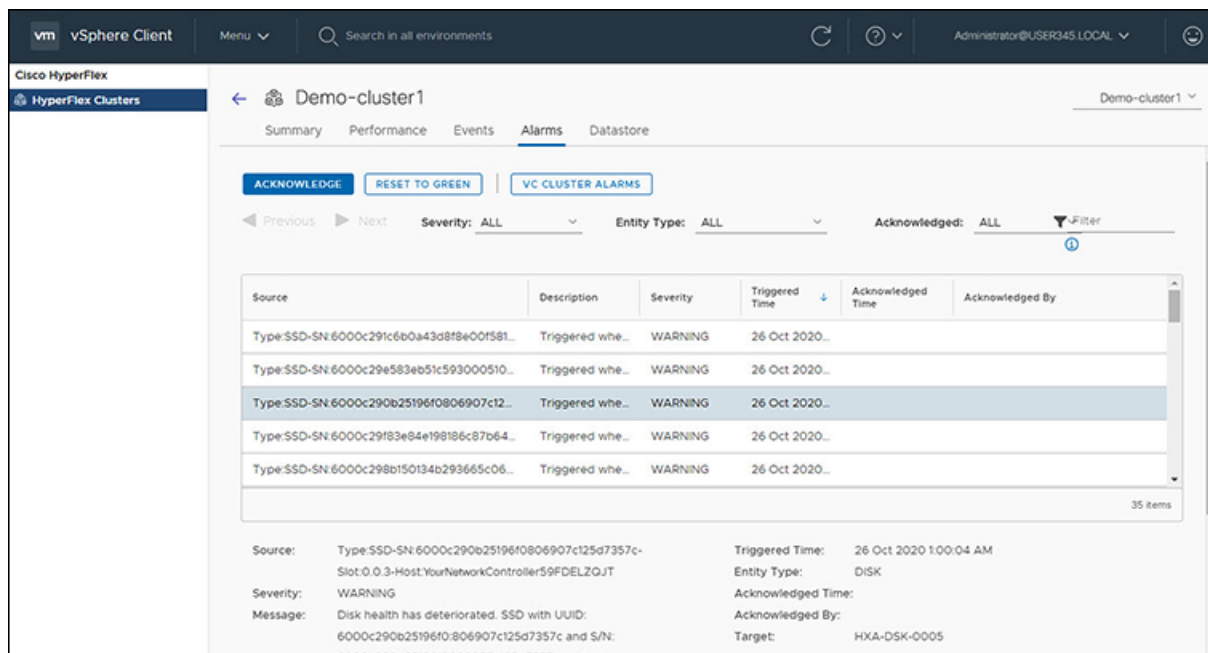
- 説明
- イベント名
- エンティティ タイプ
- シビラティ (重大度)
- 日時 (DateTime)

アラーム

クラスタ、ホスト、およびVMに固有のアラームを表示するには、次の手順を実行します。



(注) HX Connect または HTML プラグインの確認済みアラームは、同等の vCenter アラームを確認しません。



- ステップ 1 vSphere クライアントにログインします。
- ステップ 2 [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] を選択します
- ステップ 3 表示するクラスタ名をクリックします。
- ステップ 4 [クラスタ サマリ (Cluster Summary)] タブを使用して、[アラーム (Alarms)] をクリックします。
[アラームの詳細 (Alarms Detail)] ビューが表示されます。

表 28: アラームの詳細

フィールド名	その他の情報
送信元	アラームのテキストによる説明。
説明	アラーム名
シビラティ (重大度)	アラームのシビラティ (重大度) レベル有効な値は、All、Info、Warning、および Error です。
Triggered Time	アラームの発生日時。 矢印を使用して、テーブルの結果をソートおよび再ソートします。
承認時刻 (Acknowledged Time)	アラームが確認された時刻
確認者:	アラームを確認したユーザーの自動入力

- ステップ 5 (オプション) フィルタを使用して、[アラーム テーブル (Alarms Table)] に表示される結果を制限します。

Filter	フィルタ オプション
シビラティ (重大度)	All、Info、Warning、および Error
エンティティタイプ	All、クラスタ、ノード、仮想マシン、ディスクおよびデータストア
承認済み	All、True、および False
Filter	[フィルタ (Filter)]オプションにキーワードを入力して、ブラウザに表示されるテーブルの内容をフィルタリングします。

- ステップ 6** [確認済み (Acknowledged)] ボタンをクリックして、アラームが表示されたことを確認します。
[確認済み (Acknowledged)] ボタンをクリックすると、[確認者 (Acknowledged by)] フィールドにアラームを確認したユーザーが自動的に入力されます。
- ステップ 7** リストからアラームを削除するには、[グリーンにリセット (Reset To Green)] ボタンをクリックします。

タスク

メンテナンスを検証するためにプラットフォームで発生している非同期タスクを表示するには、次の手順を実行します。

The screenshot shows the vSphere Client interface for a Cisco HyperFlex cluster. The 'Tasks' tab is selected, displaying a list of tasks. The table below summarizes the visible tasks:

Description	Name	Entity Type	Entity ID	State	Triggered Time
create_iscsi_network	create_iscsi_network	NODE	423b7f06-002c-bb14-8b...	SUCCEEDED	Mon Apr 1...
create_iscsi_network	create_iscsi_network	NODE	423b7f06-002c-bb14-8b...	SUCCEEDED	Thu Apr 15...
Crash Consistent : Create iSCSI Clone Lun Task for the LUN...	iscsiClone	ISCSI	uuid	SUCCEEDED	Thu Apr 15...
Crash Consistent : Create iSCSI Clone Lun Task for the LUN...	iscsiClone	ISCSI	uuid	SUCCEEDED	Thu Apr 15...
Crash Consistent : Create iSCSI Clone Lun Task for the LUN...	iscsiClone	ISCSI	uuid	SUCCEEDED	Thu Apr 15...

Below the table, the 'Tasks Details' section shows the following tasks and their completion status:

- Configuring VLAN On Controller Host for iSCSI: ✓
- Validate nodes in the cluster: ✓
- Validating IPs: ✓
- Configuring network On Controller VMs for iSCSI: ✓
- Configuring iSCSI network settings on node 10.199.18.60: ✓

- ステップ 1** vSphere クライアントにログインします。
- ステップ 2** [メニュー (Menu)] > [Cisco HyperFlex] > [タスク] を選択します

- ステップ 3** 表示するタスクをクリックします。
サブタスクは、タスクリストの下の表に表示されます。

表 29: タスクリスト

フィールド名	その他の情報
説明	タスクの説明
名前	タスク名 (Task Name)
エンティティ タイプ (Entity Type)	タスクのタイプ。有効な値は、NODE、DP_Summary、Virtual Machine、Disk、および Datastore です。
エンティティ ID (Entity ID)	デバイス ID 番号
状態	タスクの成功または失敗を示します。
トリガ時刻	タスクの発生日時。

表 30: 作業内容

フィールド名	その他の情報
サブタスク名	タスクの名前。
成功通知	アクションの説明と、タスクが完了したときのステータス。説明の前にあるチェックアイコンは、タスクが成功したことを示します。このリストを確認して、タスクが失敗した場所を特定します。

- ステップ 4** (オプション) [エンティティタイプ (Entity Type)] リストを使用して、テーブルの結果をフィルタリングします。

vCenter : HyperFlex プラグインの組み込みアクション

ホストおよびクラスター レベルでの vCenter Server アクション

新しいデータストアの作成

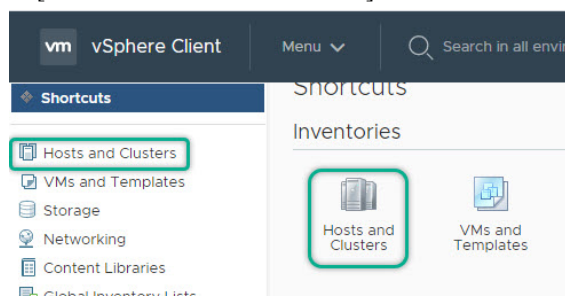
[ホストおよびクラスター (Hosts & Clusters)] レベルから新しいデータストアを作成するには、次の手順を実行します。

始める前に

HX リリース 5.0 (1a) 以降、この機能はライセンスステータスが [In-compliance] の場合に有

効になります。

ステップ 1 vSphere メニューまたは [ショートカット (Shortcut)] リンクから [ホストおよびクラスター (Hosts & Clusters)]

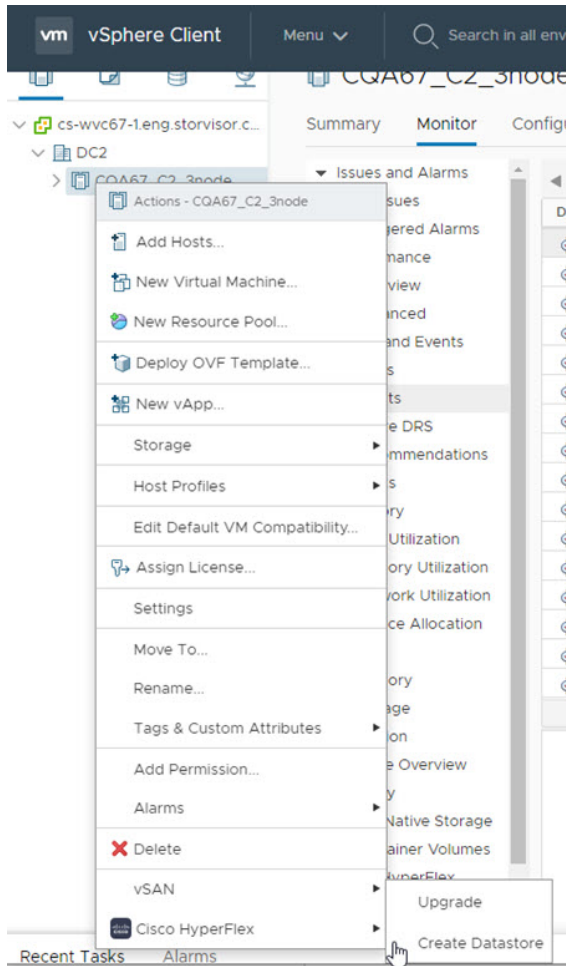


にアクセスします。

ステップ 2 クラスターを右クリックし、[Cisco HyperFlex]>[アップグレード (Upgrade)]を選択します。アップグレード HyperFlex Connect を起動し、アップグレード ページに直接移動してアップグレードプロセスを完了します。

ステップ 3 クラスターを右クリックし、[Cisco HyperFlex]>[データストアの作成 (Create Datastore)]を選択します。

メンテナンス モードを開始または終了します



[データストア (Datastore)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [新しいデータストア] ウィンドウのフィールドに入力します。

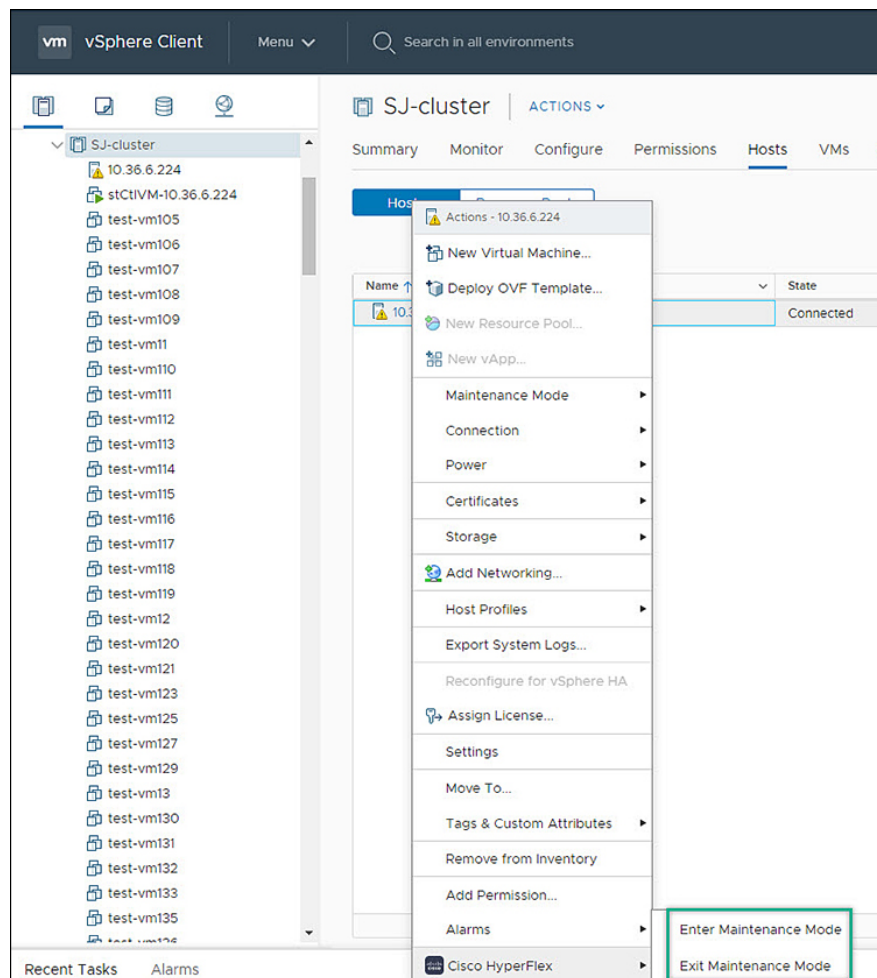
- データストア名を入力します
- [サイズ (Size)] を入力し、[GB] または [TB] を選択します。
- ブロック サイズを選択し、4K または 8K を選択します。
- [OK] をクリックします。

関連トピック

[新しいデータストアの作成](#) (35 ページ)

メンテナンス モードを開始または終了します

vSphere Web UI からホスト レベルのメンテナンス モードを開始または終了するには、次の手順を実行します。



始める前に

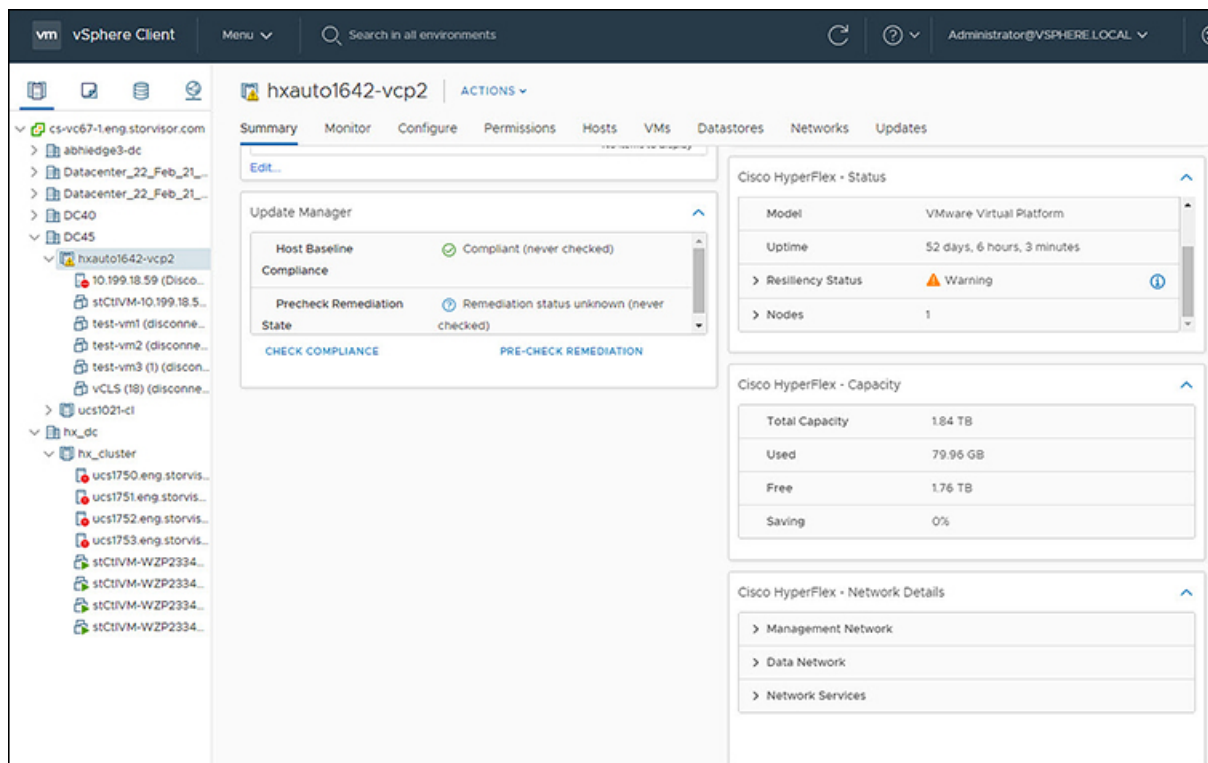
HX リリース 5.0 (1a) 以降、スケジュール スナップショット機能は、ライセンス ステータスが [In-compliance] の場合に有効になります。

-
- ステップ 1 vSphere メニューまたはショートカット リンクから [ホストおよびクラスター] にアクセスします。
 - ステップ 2 クラスター名をクリックし、[ホスト (Hosts)] タブを選択します。
[サマリー] ページが表示されます。
 - ステップ 3 ホストを右クリックし、[Cisco HyperFlex >> Maintenance Mode] > [Enter (or Exit) Maintenance Mode] を選択して、HyperFlex メンテナンスモードを開始または終了します。
-

[サマリー] タブからの HTML5 プラグイン ポートレットの表示

vSphere Web UI から Cisco HyperFlex HTML5 プラグイン ポートレットを表示するには、次の手順を実行します。

[モニタ (Monitor)]タブからの HTML5 プラグインポートレットの表示



ステップ 1 vSphere メニューまたはショートカット リンクから [ホストおよびクラスタ] にアクセスします。

ステップ 2 クラスタ名をクリックし、[サマリー] タブを選択します。[サマリー] ページが表示されます。

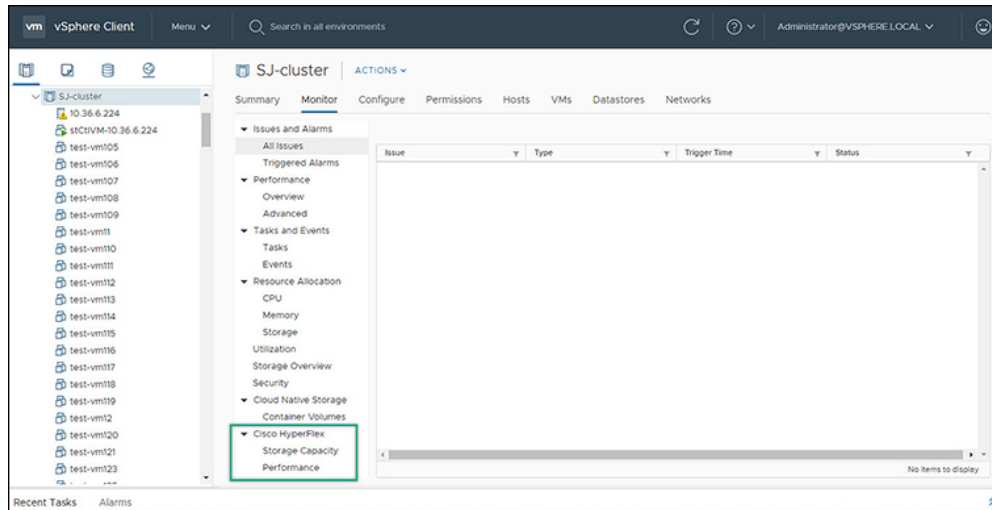
ステップ 3 下にスクロールし、各ポートレットの矢印を使用して、ポートレットの詳細を表示または非表示にします。

関連トピック

[HX クラスタ サマリーの表示](#) (11 ページ)

[モニタ (Monitor)]タブからの HTML5 プラグインポートレットの表示

vSphere Web UI から Cisco HyperFlex HTML5 プラグイン ポートレットを表示するには、次の手順を実行します。



ステップ 1 vSphere メニューまたはショートカット リンクから [ホストおよびクラスタ] にアクセスします。

ステップ 2 クラスタ名をクリックし、[モニタ (Monitor)] タブを選択します。

ステップ 3 [モニタ (Monitor)] ナビゲーションパネルを下にスクロールし、[Cisco HyperFlex] を見つけます。

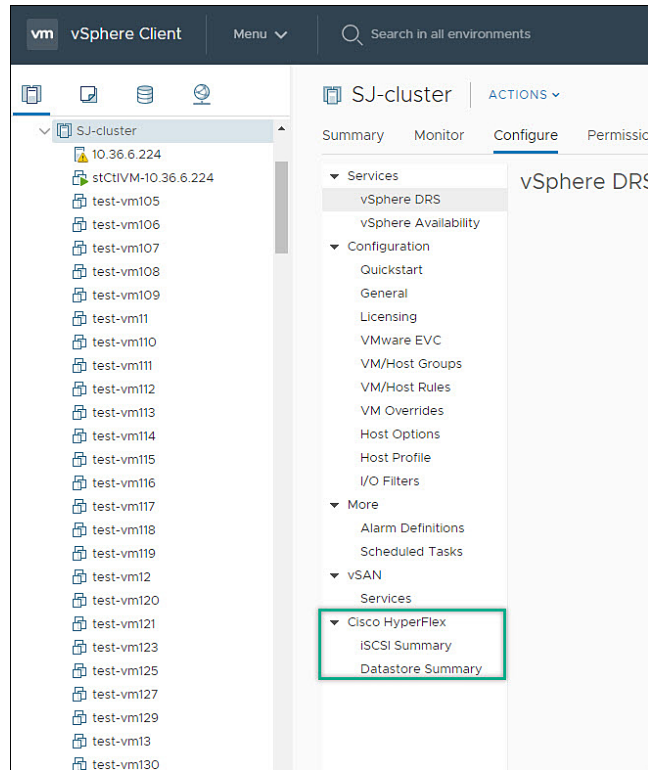
ステップ 4 [ストレージ容量 (Storage Capacity)] または [パフォーマンス (Performance)] をクリックして、関連する Cisco HyperFlex HTML5 プラグイン チャートを表示します。

関連トピック

[クラスタおよびデータストアのパフォーマンス チャートの表示](#) (19 ページ)

[Configure]タブからのiSCSIおよびデータストアの概要の表示

vSphere Web UI から iSCSI およびデータストアのサマリー ページを表示するには、次の手順を実行します。



始める前に

iSCSI 機能は、Cisco HyperFlex リリース 4.5 (x) 以降でサポートされています。

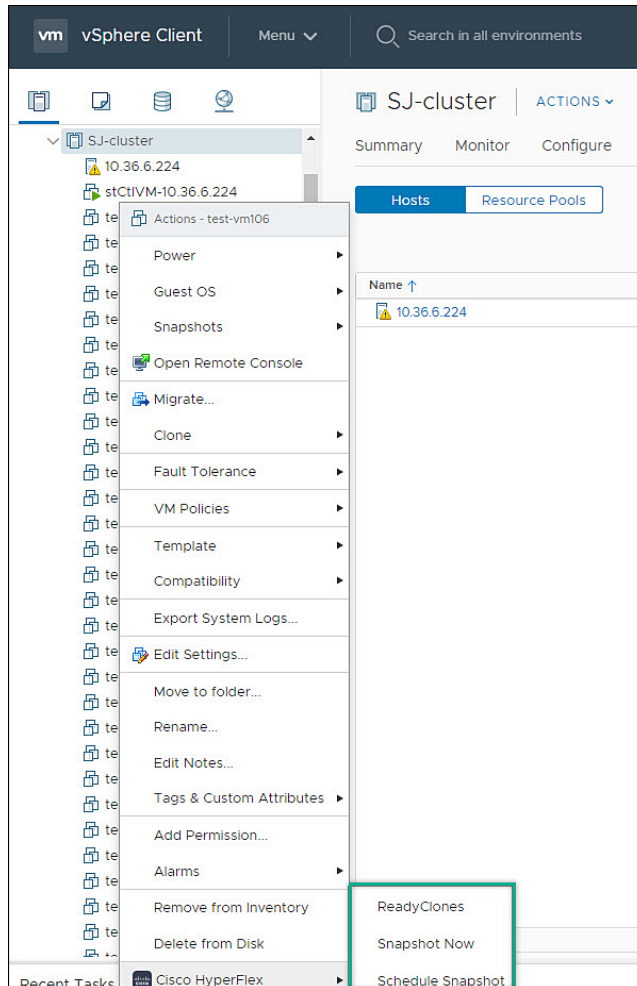
-
- ステップ 1** vSphere メニューまたはショートカット リンクから [ホストおよびクラスタ] にアクセスします。
- ステップ 2** クラスタ名をクリックし、[設定] タブを選択します。
- ステップ 3** [モニタ] ナビゲーションパネルを下にスクロールし、[Cisco HyperFlex] を見つけます。
- ステップ 4** [iSCSI Summary] または [Datastore Summary] をクリックして、関連する[Cisco HyperFlex HTML5 Plugin] ページを表示します。
- ステップ 5** ボタンを使用して、関連項目で定義されているすべてのメンテナンスタスクを実行します。
-

関連トピック

- [データストアの管理 \(33 ページ\)](#)
- [新しいデータストアの作成 \(35 ページ\)](#)
- [データストアの編集 \(36 ページ\)](#)
- [データストアのマウントまたはアンマウント \(37 ページ\)](#)
- [データストアの削除 \(38 ページ\)](#)
- [iSCSI: ターゲット \(27 ページ\)](#)
- [iSCSI: イニシエータ グループ \(29 ページ\)](#)
- [iSCSI: LUNs \(31 ページ\)](#)

仮想マシンレベルでの vCenter Server アクション

今すぐスナップショットを作成



始める前に

vSphere メニューまたはショートカットリンクのいずれかから VM およびテンプレートにアクセスします。

- ステップ 1** 仮想マシンを右クリックします。[Cisco HyperFlex] > [今すぐスナップショット (Snapshot Now)] を選択します。
- ステップ 2** [VMNative スナップショットを取得 (Take VM Native Snapshot)] ウィンドウが表示されます。次のフィールドに入力します。
 - 名前 — スナップショット名
 - 説明 - スナップショットの説明

- [ゲスト ファイル システムの休止] - チェックボックス

ステップ 3 [OK] をクリックして、VM スナップショットを作成します。バックグラウンドでアクティブなスナップショットタスクが表示されます。スナップショットが完了すると、スナップショットマネージャにリストされます。

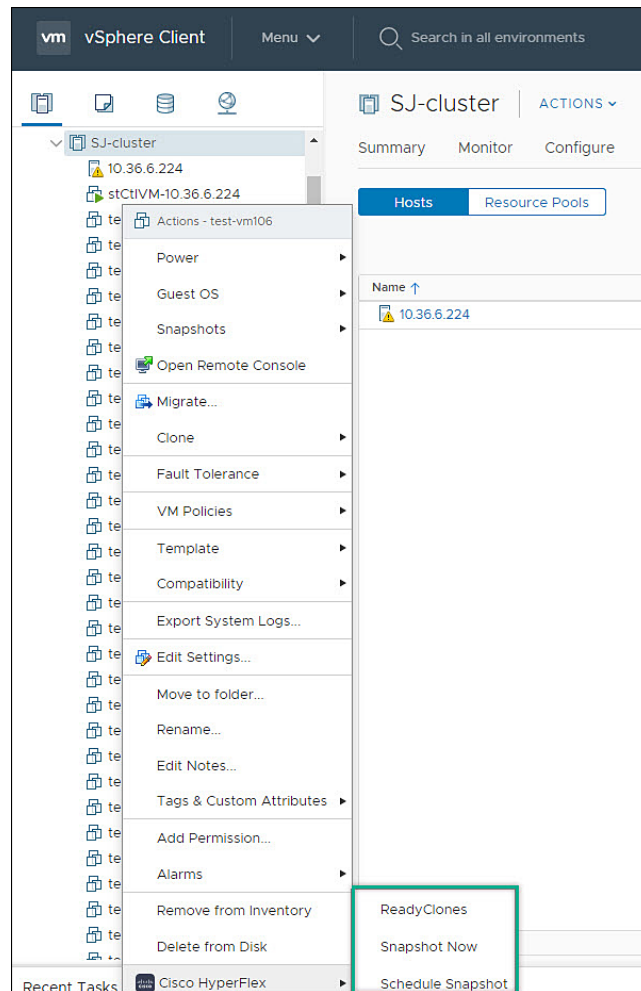
ReadyClone

始める前に

- HX リリース 5.0 (1a) 以降では、ライセンス ステータスが [In-compliance] の場合に ReadyClone 機能が有効になります。

The screenshot shows the 'Ready Clones' configuration window for a VM named 'testvm10'. The 'General Settings' tab is selected. A red warning banner at the top states: 'The HXDP license is out of compliance, please register now.' Below this, the 'Number of Clones' is set to 1. The 'Customization Specification' and 'Resource Pool' are both set to 'Select' via dropdown menus. At the bottom right, there are 'CANCEL' and 'NEXT' buttons.

- vSphere メニューまたはショートカット リンクのいずれかから **VM およびテンプレート** にアクセスします。



ステップ 1 仮想マシンを右クリックします。[Cisco HyperFlex] > [ReadyClone] を選択します。

ステップ 2 [クローン準備完了 (Ready Clones)] ウィンドウが表示されます。[一般設定 (General Settings)] フィールドに入力します。

- クローン数 - 有効なエントリ 1 ~ 256
- カスタマイズ仕様: 設定されている場合は、リストから選択します
- リソース プール: 設定されている場合は、リストから選択します。

ステップ 3 [クローン名 (Clone Name)] フィールドに入力します。

- クローン後に VM を起動: チェックボックス
- [VM プレフィックスの名前 (Name of VM Prefix)] - VM プレフィックスを入力します。
- 開始クローン番号 - デフォルトは 1 です
- クローン番号増分値 - デフォルトは 1 です

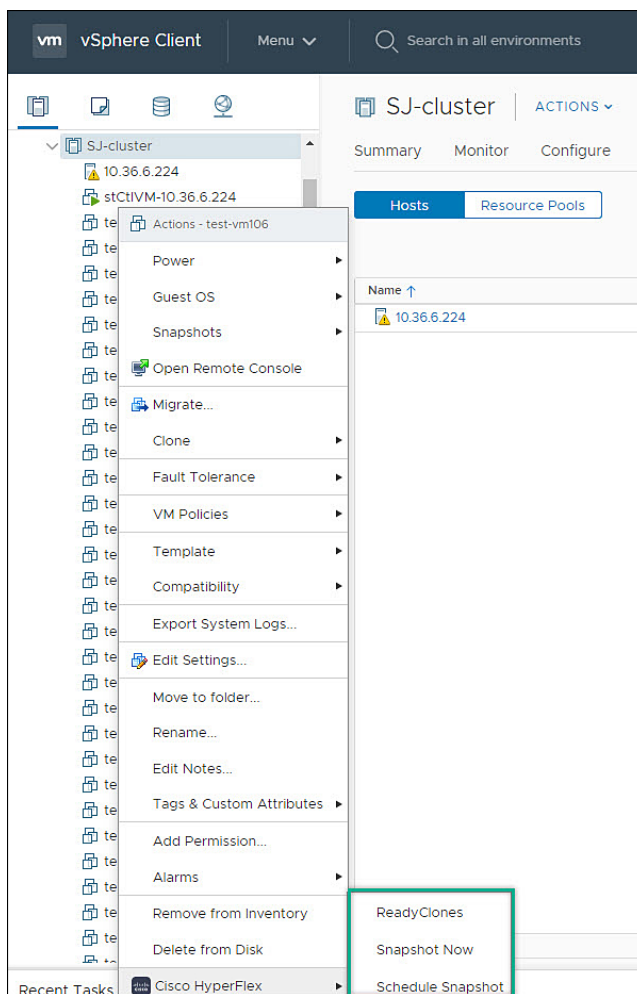
- ゲスト名に同じ名前を使用 — ゲスト名を指定する場合はオフにします

スナップショットのスケジュール

始める前に

- スナップショットのスケジュール機能は、Cisco HyperFlex リリース 4.5 (x) 以降でサポートされています。
- HX リリース 5.0 (1a) 以降、スケジュール スナップショット機能は、ライセンスステータスが [In-compliance] の場合に有効になります。
- 一時停止状態の VM でのスケジュールスナップショットはサポートされていません。
- vSphere メニューまたはショートカットリンクのいずれかから **VM およびテンプレート** に

アクセスします。



ステップ 1 仮想マシンを右クリックします。[Cisco HyperFlex] > [スケジュールのスナップショット]を選択します。
[スケジュールのスナップショット] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 チェックボックスを使用して、スナップショットの頻度を選択します

Schedule Snapshot | test-vm2

Hourly Snapshot

Start At: hh : mm

End At: hh : mm

On S M T W T F S

Maximum number of hourly snapshots to retain: 1

Daily Snapshot

Start At: hh : mm

On S M T W T F S

Maximum number of daily snapshots to retain: 1

Weekly Snapshot

Start At: 04 : 20 PM

On S M T W T F S

Maximum number of weekly snapshots to retain: 1

Total Number of snapshots to retain: 3

CANCEL OK

ステップ 3 選択したスケジュールスナップショットのフィールドに入力します。

表 31: 1時間あたりのスナップショット:

開始時刻:	有効な開始時刻入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 時間: 有効な値は 1-24 です。 分: 有効な値は 1-60 です AM/PM: リストから 1 つ選択します。
終了日:	有効な開始時刻入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 時間: 有効な値は 1-24 です。 分: 有効な値は 1-60 です AM/PM: リストから 1 つ選択します。
オン	チェックボックスを使用して、スナップショットを取得する曜日を選択します

1 時間あたりのスナップショットの最大保持数	1〜30 の値を入力または選択します。
------------------------	---------------------

表 32: 日次スナップショット:

開始時刻:	有効な開始時刻入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 時間: 有効な値は 1〜24 です。 分: 有効な値は 1〜60 です AM/PM: リストから 1 つ選択します。
オン	チェックボックスを使用して、スナップショットを取得する曜日を選択します
1 時間あたりのスナップショットの最大保持数	1〜30 の値を入力または選択します。

表 33: 週次スナップショット:

開始時刻:	有効な開始時刻入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 時間: 有効な値は 1〜24 です。 分: 有効な値は 1〜60 です AM/PM: リストから 1 つ選択します。
オン	チェックボックスを使用して、週次スナップショットの開始日を選択します。
1 時間あたりのスナップショットの最大保持数	1〜30 の値を入力または選択します。

ステップ 4 [OK] をクリックして、スナップショットスケジュールを確認します。

ストレージレベルでの vCenter Server アクション

データストアの編集

データストア レベルから、ユーザーは既存のデータストアを編集できます。

始める前に

vSphere メニューまたは [ショートカット (Shortcut)] リンクから **データストア** にアクセスします。

-
- ステップ 1 データストア名を右クリックします。
 - ステップ 2 **[Cisco HyperFlex] > [データストアの編集 (Edit Datastore)]** を選択します。
[データストアの編集 (Edit Datastore)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3 データストアの詳細を編集します。
 - ステップ 4 **[OK]** をクリックして変更を保存します。
-

関連トピック

[データストアの編集](#) (36 ページ)

データストアの削除

データストア レベルから、ユーザーは既存のデータストアを削除できます。

始める前に

vSphere メニューまたは [ショートカット (Shortcut)] リンクから **データストア** にアクセスします。

-
- ステップ 1 データストア名を右クリックします。
 - ステップ 2 **[Cisco HyperFlex] > [データストアの削除 (Delete Datastore)]** を選択します
[データストアの削除 (Delete Datastore)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3 **[削除 (Delete)]** ボタンをクリックします。
[データストアの削除 (Delete Datastore)] ウィンドウに「Do you want to delete the datastore?」という確認の質問が表示されます。
 - ステップ 4 **[OK]** をクリックして削除アクションを続行するか、**[キャンセル (Cancel)]** をクリックして [データストアの削除 (Delete Datastore)] ウィンドウを終了します。
-

関連トピック

[データストアの削除](#) (38 ページ)

VMware vCenter の Cisco HyperFlex Flash プラグイン

VMware vCenter 用の Cisco HyperFlex Flash プラグインにより、仮想化管理者は Cisco HyperFlex 物理インフラストラクチャを管理およびモニタできます。

Cisco HyperFlex Flash の前提条件

Cisco HyperFlex フラッシュ プラグインには、次のハードウェアおよびソフトウェアの前提条件が適用されます。



(注) Cisco HyperFlex フラッシュ プラグインは、元のプラグインです。HXDP リリース 4.5(1a) は、Cisco HyperFlex フラッシュ プラグインをサポートする最終リリースです。この変更は、一般的なブラウザでのフラッシュ サポートの終了と同時に発生します。にアップグレードすることをお勧めします。 [VMware vCenter の Cisco HyperFlex HTML5 プラグイン \(1 ページ\)](#)

- ブラウザの互換性: Cisco HyperFlex HTML プラグインは、vSphere クライアントと HyperFlex 接続が機能するすべてのブラウザで機能します。

vSphere からの HyperFlex メニューオプションの起動

HyperFlex Connect は、新しいブラウザ タブの vSphere クライアント UI から起動し、HyperFlex UI で管理アクションを実行できます。

- 新しいブラウザ タブで HyperFlex Connect Ready Clone を起動するには、vSphere クライアントの atVirtual Machine レベルで、[アクション (Actions)] > [Cisco Hyperflex Systems] > [Ready Clone] を選択します。
- 新しいブラウザ タブで HyperFlex Connect ダッシュボードを起動するには、HX クラスタレベルの vSphere クライアントで、[アクション (Actions)] > [Cisco Hyperflex Systems] > [概要 (Summary)] を選択します。

Flash プラグインからのクラスタの再調整と自己修復ステータスの確認

ストレージクラスタのリバランスは定期的に行われ、クラスタ内の利用可能なストレージ量が増えたときにも行われます。さらに、利用可能なストレージ量が減少した場合にも、リバランスがトリガーされます。これは自動自己修復機能です。



重要 再調整は、通常、1つのディスクの使用率が 50% を超えた場合またはクラスタの集約ディスク使用率が 50% 以上の場合にのみ発生します。

HX Data Platform プラグインまたはストレージ コントローラ VM コマンドラインから再調整ステータスを確認できます。VM コマンドラインの使用方法については、[クラスタの再調整ステータスと自己修復ステータスの確認](#) を参照してください。

HX Data Platform プラグインからの再調整ステータスの確認

- vSphere Web クライアント ナビゲータから、[vCenter Inventory Lists] > [Cisco HyperFlex Systems] > [Cisco HX Data Platform] > *cluster* > [サマリ (Summary)] の順に選択します。
[状態 (Status)] ポートレットには自己修復ステータスがリストされます。

- b) [復元ステータス] を展開して、[自己修復ステータス] セクションを表示します。[自己修復ステータス (Self healing status)] フィールドには、再調整アクティビティまたは N/A (再調整が現在アクティブではない場合) が示されます。

HX Data Platform プラグインの [最新のタスク (Recent Tasks)] タブに、ステータス メッセージが表示されます。

HX Flash プラグインを通じたディスク ビーコンの設定

ビーコンは、ノード (ホスト) とディスクを探して特定するのに役立つ LED をオンにする方法です。ノードには、前面の電源ボタンの近くと背面にビーコン LED があります。ディスクには、前面にビーコン LED があります。

Cisco UCS Manager を通じてノード ビーコンを設定します。ディスク ビーコンは、Cisco HX Data Platform プラグインまたは HX Connect ユーザー インターフェイスを使用して設定します。

HX Data Platform プラグインを使用してディスク ビーコンをオンまたはオフにします。

- a) vSphere Web クライアント ナビゲータから、[vCenter インベントリ リスト (vCenter Inventory Lists)] > [Cisco HyperFlex システム (Cisco HyperFlex Systems)] > [Cisco HX データ プラットフォーム (Cisco HX Data Platform)] > [クラスタ (cluster)] > [管理 (Manage)] の順に選択します。
- b) [管理 (Manage)] タブで、[クラスタ (Cluster)] > [クラスタ (cluster)] > [ホスト (host)] > [ディスク (Disks)] > [ディスク (disk)] の順に選択します。
- c) オブジェクトの物理的な場所を探して、ビーコンをオンにします。

[操作 (Actions)] ドロップダウン リストから、[ビーコン ON (Beacon ON)] を選択します。

- d) ディスクが見つかったら、ビーコンをオフにします。

[操作 (Actions)] ドロップダウン リストから、[ビーコン OFF (Beacon OFF)] を選択します。

ハウスキーピング SSD とキャッシュ NVMe SSD を除いて、選択されているノード上のすべてのディスクのビーコン LED が切り替えられます。ハウスキーピング SSD またはキャッシュ NVMe SSD では、LED ビーコンは動作しません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。